

第54回
北海道作業療法学会学術大会
プログラム

生活行為。その先の共創

2024年6月22日(土)・23日(日)

北ガス文化ホール
(千歳市民文化センター)



公益社団法人

北海道作業療法士会



札幌山の上病院 がん・リウマチ・神経難病 リハビリテーションセンター

■

高齢化により、がんの手術や化学療法などの高度な治療により
呼吸・心臓・消化器・腎・骨・免疫など重複障害のために、
在宅生活への移行が困難な例は少なくありません。

■

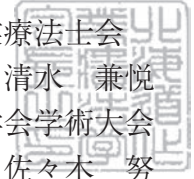
その重複障害に焦点を合わせた治療と、
専門的視座から分析した生活の再構築に向け、
がん・リウマチ・神経難病リハビリテーションセンターが
開設されました。



令和6年4月吉日

施設長
病院長様

公益社団法人北海道作業療法士会
会長 清水 兼悦
第54回北海道作業療法学会学術大会
大会長 佐々木 一努



学会出張のお願いについて

謹啓 春暖の候、貴職におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。
平素より公益社団法人北海道作業療法士会に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この度第54回北海道作業療法学会学術大会を下記のとおり開催する運びとなりました。社会へのさらなる貢献を目指すべく、作業療法のあり方について様々な角度から検証していきたいと考えております。本学会が実りあるものとなり、各関係者のご期待に応えられるよう努力する所存でございます。

つきましては、貴施設作業療法士の学会出張に際しまして、格別のご高配を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

謹 白

記

1. 会 期

令和6年6月22日（土） 10：00～19：00
大会長シンポジウム（会場・後日オンデマンド配信）
開会式（会場のみ）
特別講演（会場・後日オンデマンド配信）
一般演題発表（会場のみ）
メイクデビュー・セッション（会場のみ）
SIGワークショップ（会場のみ）
令和6年6月23日（日） 9：30～15：00
教育シンポジウム（会場・後日オンデマンド配信）
一般演題発表（会場のみ）
SIGワークショップ（会場のみ）
閉会式（会場のみ）
市民公開講座（会場・後日オンデマンド配信）

2. 会 場 北ガス文化ホール（千歳市北栄2丁目2番11号）

3. 事務局 北海道千歳リハビリテーション大学健康科学部リハビリテーション学科
作業療法学専攻（千歳市里美2丁目10番）

4. 参加費 会員：6,000円（事前登録のみ） 一般：10,000円（事前登録のみ）

第54回北海道作業療法学会学術大会プログラム

学会テーマ

生活行為。その先の共創

会 期

現 地：2024年6月22日(土)～6月23日(日)
北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）

オンデマンド：2024年7月13日(土)～7月31日(水)

後 援

北海道

千歳市

一般社団法人北海道医師会

一般社団法人北海道薬剤師会

一般社団法人北海道言語聴覚士会

一般社団法人北海道医療ソーシャルワーカー協会

一般社団法人北海道介護支援専門員協会

一般社団法人北海道歯科衛生士会

一般社団法人日本精神科看護協会北海道支部

一般社団法人北海道精神保健福祉士協会

一般社団法人北海道放射線技師会

一般社団法人北海道臨床衛生検査技師会

一般社団法人北海道建築士会

一般社団法人北海道身体障害者福祉協会

一般社団法人北海道精神障害者家族連合会

一般社団法人北海道総合研究調査会

一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団

一般社団法人北海道知的障がい福祉協会

一般社団法人北海道手をつなぐ育成会

一般社団法人北海道老人保健施設協議会

一般財団法人北海道難病連

公益社団法人日本義肢装具士協会

公益社団法人北海道理学療法士会

公益社団法人北海道栄養士会

公益社団法人北海道看護協会

公益社団法人北海道社会福祉士会

公益社団法人北海道歯科技工士会

公益社団法人北海道柔道整復師会

公益社団法人北海道鍼灸師会

公益社団法人北海道鍼灸柔整マッサージ師会

公益社団法人北海道臨床工学技士会

公益社団法人全国病院理学療法協会北海道地方会

公益社団法人認知症の人と家族の会北海道支部

公益財団法人北海道肢体不自由児者福祉連合協会

社会福祉法人北海道社会福祉協議会

社会福祉法人千歳市社会福祉協議会

特定非営利活動法人

北海道若年認知症の人と家族の会

北海道精神保健協会

北海道ホームヘルプサービス協議会

北海道リハビリテーション学会

北海道新聞社

読売新聞北海道支社

朝日新聞北海道支社

(順不同・敬称略)

目 次

実施要綱	1
会長挨拶	2
第54回北海道作業療法学会学術大会大会長挨拶	3
式次第	4
案内図	5
ご参加の皆さまへ	8
演者・座長の皆さまへ	13
大会プログラム	14
学会日程表	16
市民公開講座	17
特別講演	19
大会長シンポジウム	21
教育シンポジウム	29
演題プログラム	37
メイクデビュー・セッション	45
SIGワークショップ	47
実行委員会	55
協賛いただいた施設・団体	56

実施要綱

1. 主催機関

公益社団法人北海道作業療法士会

2. 名 称

第54回北海道作業療法学会学術大会

3. 会 期

現地会場

2024年6月22日(土) 10:00～6月23日(日) 15:00

オンデマンド(特別講演, 大会長シンポジウム, 教育シンポジウム, 市民公開講座のみ)

2024年7月13日(土)～7月31日(水)

4. 会 場

北ガス文化ホール(千歳市民文化センター)(千歳市北栄2丁目2番11号)

5. 大会長

佐々木 努(北海道千歳リハビリテーション大学)

6. テーマ

生活行為。その先の共創

7. 事務局

北海道千歳リハビリテーション大学内

〒066-0055 千歳市里美2丁目10番

実行委員長 久保 勝幸

E-mail: haot.54gakkai.jimukyoku@gmail.com



公益社団法人 北海道作業療法士会
会 長 清水 兼悦

第54回北海道作業療法学会の開催に寄せて

このたび、公益社団法人北海道作業療法士会第54回北海道作業療法学会学術大会が、北海道千歳リハビリテーション大学の佐々木努氏を学会長、同大学の久保勝幸氏を実行委員長とする実行委員会諸氏のご尽力により、千歳市民文化センターにて盛大に開催されることを、心よりお慶び申し上げます。同時に感謝申し上げます。昨年度の大会からさらに対面でのプログラムを充実させる一方、講演やシンポジウムはオンデマンドにて配信も行う予定とのこと、実行委員諸氏のご尽力に重ねて感謝申し上げます。一会員として心より楽しみにしております。

学会のテーマは「生活行為。その先の共創」ということですが、人類がこの世に誕生したころから脈々と変化しつつも営まれてきたモノコトである「生活行為」は、私が働いている40年の間にも携帯電話やパソコン、インターネットやAI、人口減少・少子高齢社会など様々なパラダイムシフトが起こり、それをういた作業療法も共にパラダイムシフトしなければならず、「その先の共創」は必然と言えます。

学会テーマ「生活行為。その先の共創」を冠にしたシンポジウムには、「自動車運転支援における『生活行為。その先の共創』と、「各領域における『生活行為。その先の共創』」の2テーマが用意され、道内で活躍している若き作業療法士8名によって繰り広げられるとのことで期待しております。

特別講演では、仙台青葉学院大学の齋藤佑樹先生から「作業療法士が対象者と共創する生活行為の先にあるもの」というテーマで、また、市民公開講座では、高知大学の上村直人先生から「加齢と自動車運転～安全&健康に生活するために～」というテーマで、この領域の研究の第一人者から一般市民の皆様にもわかりやすくご講演いただく予定です。

その他、一般演題やメイクデビュー・セッションなど充実したプログラムが組まれております。

このたびのcovid-19による感染対策にても大きく変わった「生活行為」に焦点を当てて、多くの若い作業療法士が、現在、未来のクライアントや多職種、ひいては社会との「共創」について多くの先達から学びて問い、実行委員会に用意していただく貴重な対面での環境にて、成果の発表や意見を交換することを、心より祈念しております。



第54回北海道作業療法学会学術大会
大会長 佐々木 努

ご挨拶

この度、第54回北海道作業療法学会学術大会大会長を拝命致しました。このような名誉ある機会を頂き、心を躍らせています。

私は、23年間、主としてアカデミア領域で作業療法士としてのキャリアを積んできました。協会・士会活動、研究活動、臨床活動、社会貢献活動、大学運営活動を通じて、対外的な活動も多く経験してきました。そのような背景もあり、作業療法という職業を俯瞰する機会に恵まれていたと考えています。また、幸いにも、私の周りにはアクティビティの高い仲間が多く、作業療法という仕事の魅力や課題を共有しながら、作業療法の未来に思いを馳せてきました。作業療法という仕事は、社会に求め続けられるのだろうか、求め続けられるためには私たちは何をしなければならないのか、いつか職業選択を迫られる現在の子どもたちは作業療法という仕事に魅力を感じるのだろうか。多くの作業療法士が集う学術大会で、今一度立ち止まって深慮したいと思います。

第54回北海道作業療法学会学術大会のテーマは、「生活行為。その先の共創」です。『共創 (co-creation)』は、経済学分野で誕生した言葉だそうです。目まぐるしい速さで変化する社会に適応するために、他者や他業種と共に新たな価値や技術を設定し、前進していくという意味があります。作業療法にも当てはめることができる考えです。そこで、本学術大会では、この『共創』をテーマに取り入れることにしました。作業療法はあくまで社会に存在する仕事の一つでしかありません。私たち作業療法士がどんなに素晴らしい仕事であると思っても、社会に不要と判断されれば淘汰されていきます。皆さんご存じの通り、2018年に改訂された作業療法の定義（日本作業療法士協会）では、「作業療法は、人々の健康と幸福を促進するために、医療、保健、福祉、教育、職業などの領域で行われる、作業に焦点を当てた治療、指導、援助である。作業とは、対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為を指す」と記されています。私たちは、作業療法（＝作業に焦点を当てた実践）を通して社会に貢献していることとなります。本学術大会のテーマに重ねますと、作業療法士は、臨床・教育・研究、様々な領域での生活行為に焦点を当てた実践（＝作業療法）を通して、社会に貢献していることとなります。その実践過程で、様々なパートナーと『共創』しているはずですが。例えば、対象者との共創では、時代に合わせた幸福や健康を高める方法を個人や社会に提案することがあるかもしれません。本学術大会では、どのようなパートナーと何を共創するのか、共創するための作業療法士像とは何か、について議論し、共有したいと考えています。その場の一つとして、特別講演、各種シンポジウムの先生方には、「私の考える『生活行為。その先の共創』」を提示して頂く予定です。

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこと、多くの他職種・他業種の学会が対面移行していることを受け、本学術大会では、講演、シンポジウム、市民公開講座、SIGはもちろん、口述発表もすべて対面で行います（講演、シンポジウム、市民公開講座はオンデマンド配信あり）。また、入職1年目の新人から5年目程度までの若手が集うことを目的に、軽食などを用意した学術セッションを企画しています。学会は、知識や経験を共有する場であると共に、仲間を増やす場所です。まさに、共創パートナーと出会う場所です。是非、周りの同僚、先輩、後輩と共に千歳に足を運んでください。実行委員一同、皆様と「共創」できることを心待ちにしております。

式次第

開会式

6月22日(土) 12:15~

- 1 大会長挨拶
第54回北海道作業療法学会学術大会 大会長 佐々木 努
- 2 会長挨拶
公益社団法人北海道作業療法士会 会長 清水 兼悦
- 3 祝辞

閉会式

6月23日(日) 12:30~

- 1 表彰式
- 2 大会長挨拶
第54回北海道作業療法学会学術大会 大会長 佐々木 努
- 3 次期大会長挨拶

案内図

周辺マップ



交通手段

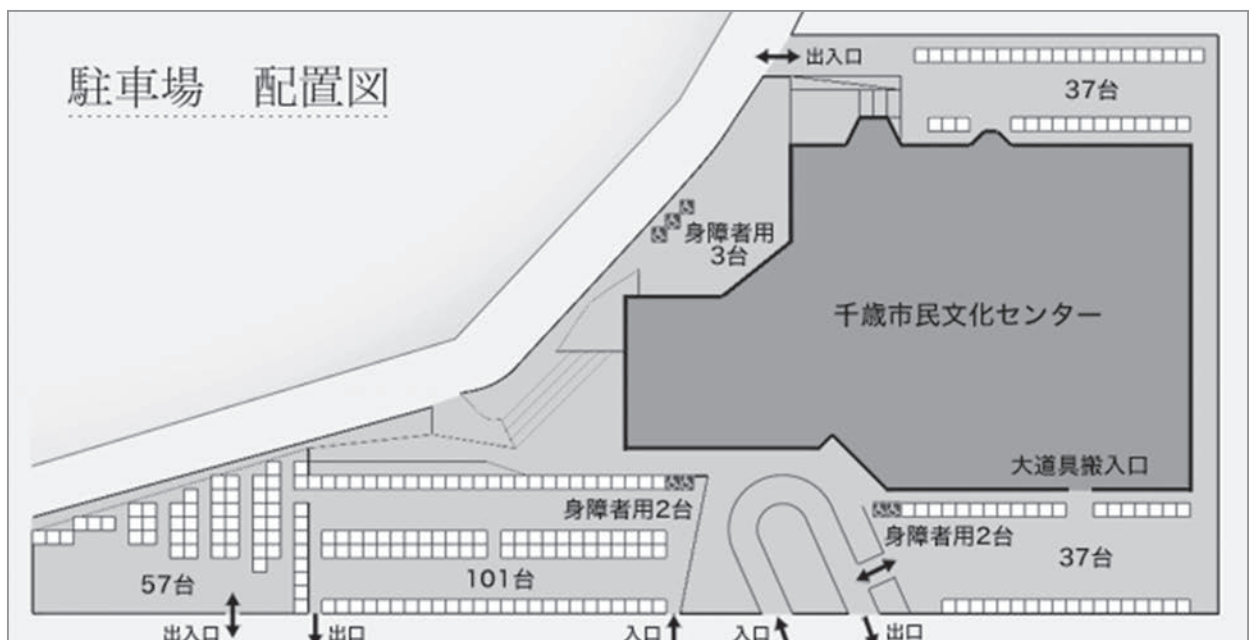
J R千歳駅から徒歩7分

J R札幌駅からJ R千歳駅までは、快速エアポートで29分

J R新千歳空港駅からJ R千歳駅までは、快速エアポートで7分

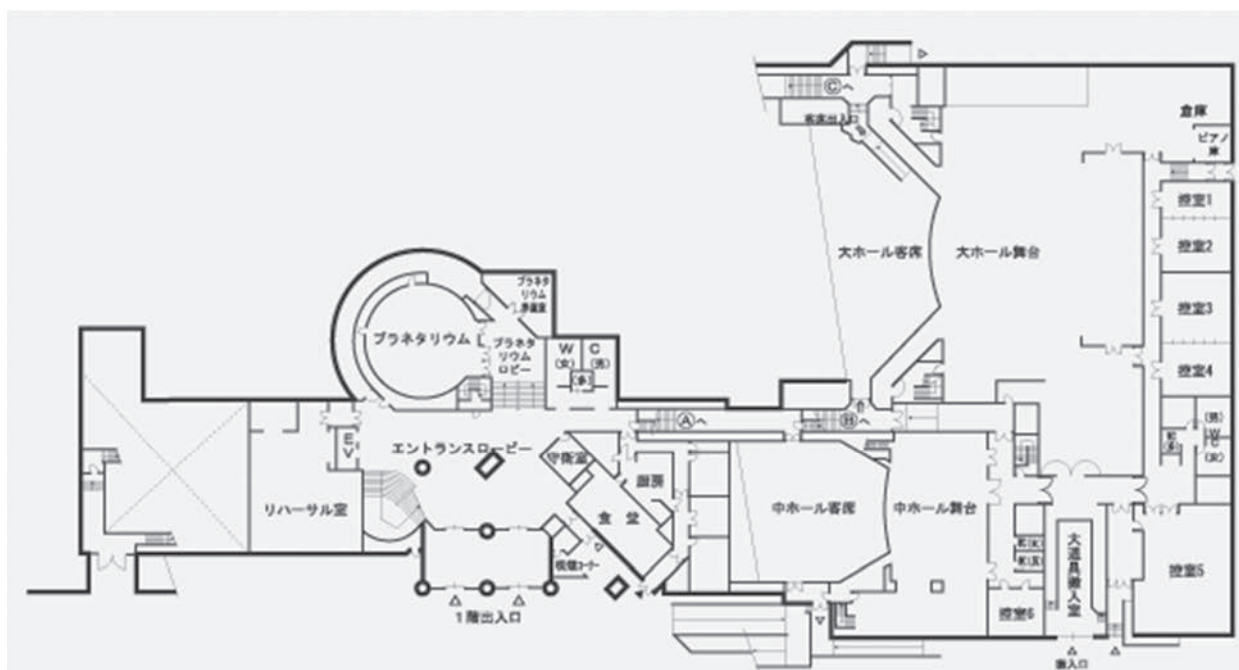
駐車場

駐車場 配置図

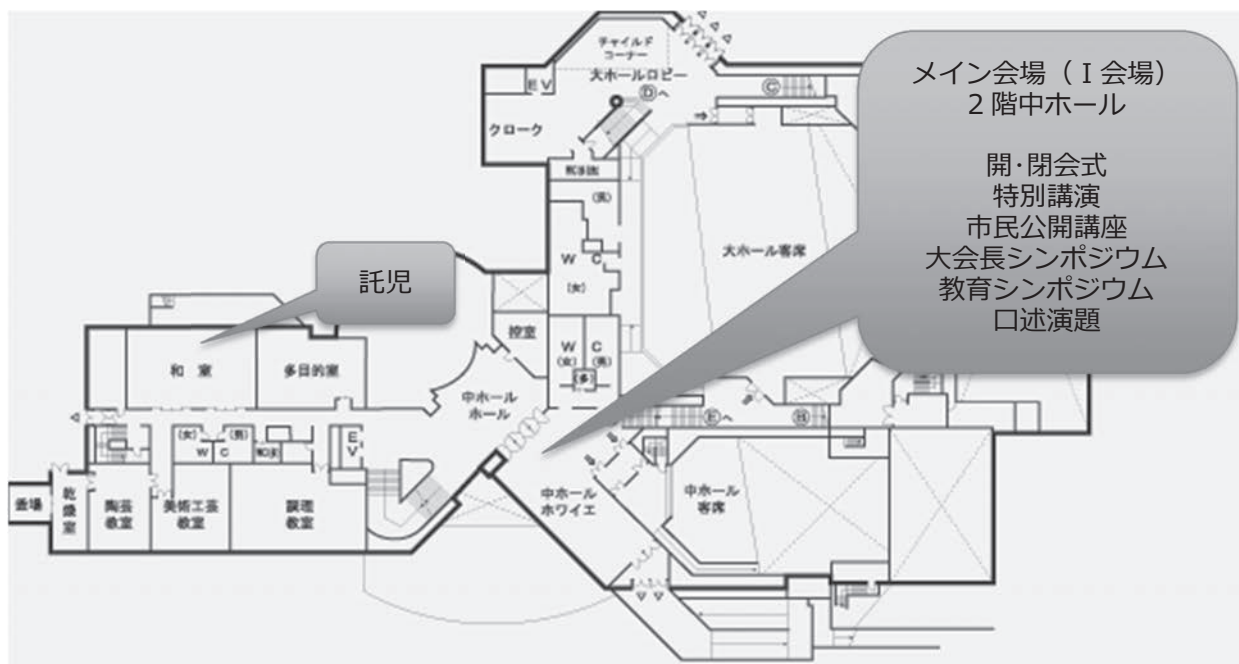


駐車台数には限りがあります。

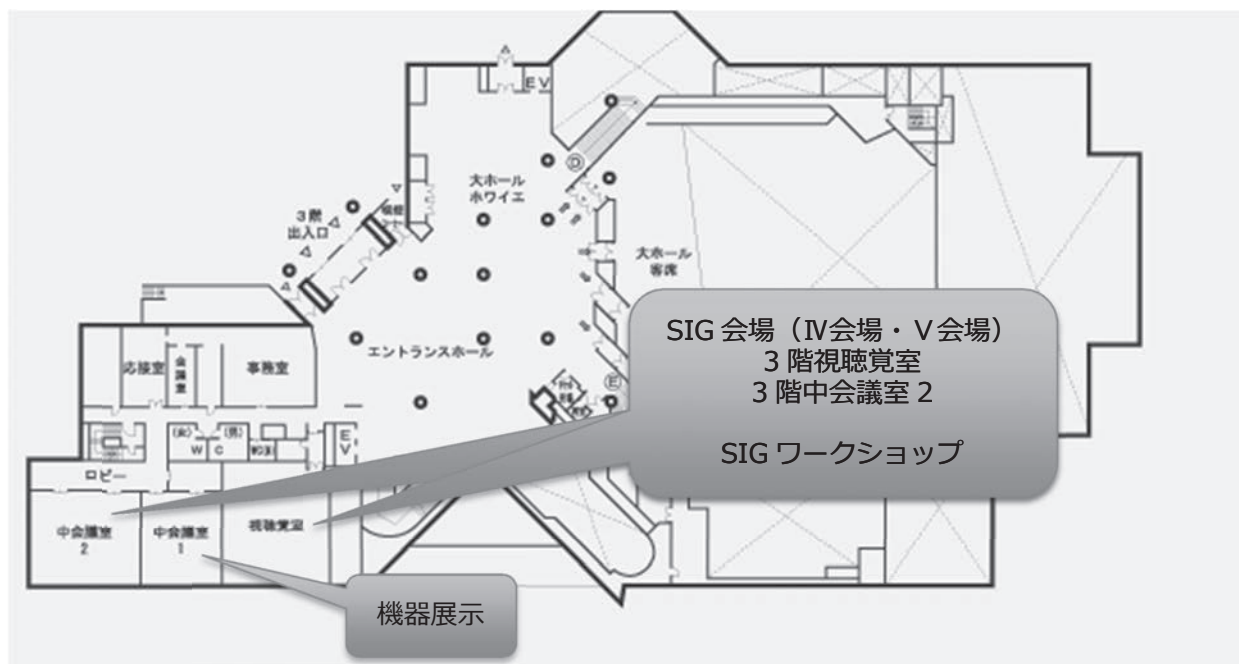
会場見取り図（1階）



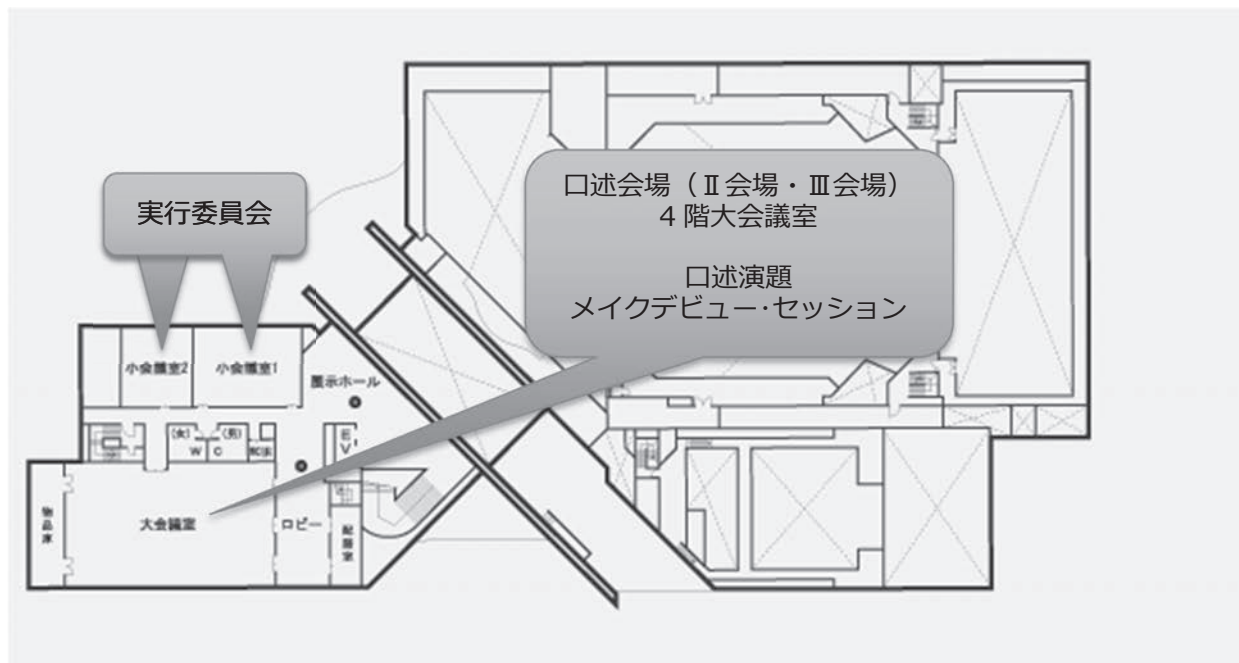
会場見取り図（2階）



会場見取り図（3階）



会場見取り図（4階）



第54回北海道作業療法学会学術大会 ご参加の皆さまへ

事前参加登録受付締切日（当日申込はありません）

現 地 参 加：2024年6月20日（木） 23：59まで

オンデマンド参加：2024年7月28日（日） 23：59まで

※現地参加は定員400名に達した場合、事前参加登録を早期に締切る場合があります。

参加費

区分／項目	金額
北海道作業療法士会 会員（入会申込中を含む）	6,000円
一般	10,000円
学生（作業療法士養成校のみ）	0円

当日の申込はありません。

年会費未納者の扱いについて

年会費未納者の扱いについては、以下の通りとさせていただきます。

2024年度年会費未納→事前登録締め切り日までに年会費納付（2023年以前からの年会費未納の場合はあわせて納付）の場合に限り、参加登録費6,000円（会員扱い）にてご参加いただけます。

※現地参加とオンデマンド参加では事前登録締め切り日が異なりますので、ご注意ください。

北海道作業療法士会および日本作業療法士協会の会員について

北海道作業療法士会会員の方は参加申し込みページにて会員番号を必ずご入力ください。

会員番号は北海道作業療法士会カード（JACCSカード）の左下8桁の番号です。

新卒者の方につきましては、まず道士会への入会手続きを行います。入会手続き完了後、会員として参加登録可能です。

また、日本作業療法士協会会員の方は生涯教育制度のポイント付与手続きのために会員番号が必要となりますので必ずご入力をお願いいたします。

会員番号のご入力がない場合や正しい番号でない場合、会員扱いでの参加およびポイント付与が出来ない場合がございますのでご注意ください。

6月13日（木）までに参加者限定HPのIDとPWをお知らせいたします。

参加者限定HPでは、オンデマンド視聴（7月13日から31日まで）、参加証のダウンロード（印刷して当日必ずご持参ください）、抄録集の閲覧・ダウンロードが可能です。

事前参加登録の手順

大会ホームページ (<https://confit.atlas.jp/guide/event/haot54/top>) の参加登録ページにある「Confit (参加申込サイト) へ」からお願いします。

STEP 1 : Confit アカウント確認・新規登録

- 「Confit アカウントログイン」→「アカウント確認」画面より Confit アカウント（メールアドレスとパスワード）が登録されているかどうかを確認してください。
- アカウントをお持ちの場合：ログイン画面が表示されます。
パスワードを入力してログイン後、申込者情報登録に進んでください。
一般演題にお申し込みいただいた方は、必ず演題申込の際に使用された Confit アカウントでログインしてください。
- アカウントをお持ちでない場合：アカウント登録画面で新規登録をお願いいたします。
- ご登録いただいたアカウントを用いてシステムにログインすることにより、受付期間中は登録内容をいつでも修正・差替できます。ただし、参加費決済完了後は参加申込情報や支払方法の変更ができませんのでご注意ください。

STEP 2 : 申込者情報登録

- Confit にログインし、ダッシュボード「各手続きの申込・訂正はこちら」をクリックしてください。必要項目を入力し、「確認」をクリックしてください。ご登録内容に誤りがな
いことを確認し、「登録」をクリックしてください。
- 会員番号は北海道作業療法士会カード（JACCS カード）の左下 8 桁の番号です。
- 2024 年 3 月卒業見込みの学生は「卒業見込み」、非会員の場合は「非会員」、不明の場合は「不明」とご入力ください。

STEP 3 : 参加申し込み

STEP 4 : 参加費決済（クレジットカード／銀行振込）

- クレジットカードの場合は、参加登録完了画面から決済画面に進むことができます。
- クレジットカード決済は、GMO ペイメントゲートウェイ社のオンライン決済代行サービスを利用しています。
- 登録いただいた内容は Confit マイページ「登録情報を表示」ボタンにて、いつでもご確認いただけます。
- 参加費決済完了後は参加費と支払方法の変更ができませんのでご注意ください。

お支払について

学会参加費のお支払いは原則クレジットカードとなります。

できるだけ「北海道作業療法士会カード」での入金をお願いします。

※学生（作業療法士養成校のみ）の方は参加費無料のためお支払い不要です。

■クレジットカードでの決済の場合

JCB, AMERICAN EXPRESS, Diners Clubのカードをご利用いただけます。

クレジットカード決済は、GMOペイメントゲートウェイ社のオンライン決済代行サービスを利用しています。

■銀行振込の場合

振込手数料は各自でご負担ください。

送金の際は登録者名の前にメールにてご案内しましたP Aから始まる予約番号の下五桁を入力してください（例：12-345ホッカイミチコ）。

数名分をまとめて振込する際や施設名での振込をされる場合は、必ずこちらまで事前にご連絡願います。

なお公費、校費でのお支払については取扱いたしません。

【送金先口座情報】

お振込口座

銀行名：北海道銀行（0116）

店名：恵み野出張所（117）

口座種別：普通預金

口座番号：0311230

口座名義：公益社団法人北海道作業療法士会 会長 清水 兼悦

6月20日（木）までにお支払をお済ませください。

登録内容の変更，取消をされる場合

申込締切日まではConfitマイページ内「参加登録内容変更」ボタンより変更・取消が可能です。ただし，参加費決済完了後は参加費と支払方法の変更ができませんのでご注意ください。

現 地 参 加：2024年6月20日(木) 23：59まで
オンデマンド参加：2024年7月28日(日) 23：59まで

締切日以降は，第54回北海道作業療法学会学術大会サポートデスク（haot_support@nacos.com）までメールでご連絡願います。

参加登録の取消については，締切日以降はお受けできません。またお支払済の参加費に関して締切日以降は理由の如何を問わず一切返金できませんことをご了承ください。

お申し込み・お問い合わせ先

【参加登録お問い合わせ】

第54回北海道作業療法学会学術大会サポートデスク

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入

Email：haot_support@nacos.com

（営業時間：平日9：00～17：00 土日・祝祭日は休業）

会場での留意事項

- (1) 施設，敷地内は全て禁煙です。
- (2) 昼食等は，会場周辺の飲食店，近隣のコンビニエンスストア等をご利用ください。
- (3) クロークは設けておりません。
- (4) 土会広報部，学会実行委員による記録以外，学術大会プログラムでの写真撮影，録画録音等は一切できません。

機器展示のご案内

会期中、以下の業者様が機器展示等を行います。是非お立ち寄りください。

日時：6月22日(土) 12:00～17:00

23日(日) 9:30～13:00

会場：3階中会議室1

展示業者一覧（順不同・敬称略）

ミナト医科学株式会社札幌営業所

株式会社新日本教育シューズ

矢崎化工株式会社北海道支店

酒井医療株式会社札幌営業所

株式会社日本メディックス札幌営業所

フランスベッド株式会社メディカル札幌営業所

住友ファーマ株式会社フロンティア事業推進室

託児のご案内

学会期間中、託児サービスを準備しております。事前申込が必要です。

日時：6月22日(土) 9:30～18:30

6月23日(日) 9:00～15:30

料金：会員のお子様1人につき、1日1,000円

託児は生後3か月から12歳（小学校6年生）まで対応しております。

詳細は学会ホームページでご案内いたします。

問い合わせ先：公益社団法人北海道作業療法士会 制度対策部 本間

(E-Mail) homma.ot@gmail.com

演者・座長の皆さまへ

1. 一般演題の発表要領

- (1) 全て口述発表となります。
- (2) 1演題につき発表時間は7分以内、質疑応答は3分以内とします。発表時間終了1分前と時間終了時に合図いたします。進行は座長の指示に従ってください。
- (3) 演者は該当セッションの開始30分前までに総合受付内の「演者受付」において受付を済ませてください。演者に変更のある場合は、演者受付時にお申し付けください。
- (4) 採択された演題の取り消しはできません。発表が困難になった場合には速やかに学会事務局にご連絡ください。
- (5) 演者は該当セッション10分前までに、会場にお越しになり、次のセッション控え席にご着席ください。
- (6) 演者はセッション終了後までセッション会場に待機し、質疑に対応してください。

2. スライド作成に関する注意事項

- (1) 口述発表で使用するスライドは、Microsoft PowerPoint (2010～) を使用して作成してください。
- (2) 図表を使用される場合は鮮明なものをお使いください。動画・アニメーション機能は使用しないでください。スライドの枚数に制限はありませんが、データ送信時に時間がかかったり、エラーが生じたりする原因となりますので、写真や画像を使用する場合には、原画サイズを縮小し、JPEG、GIFなどの形式にして、3000KB (3MB) 以内を厳守してください。
- (3) 学会当日のパソコンの持ち込み接続、確認、変更はできません。
- (4) 演者は発表内容に関連する企業、法人組織や営利を目的とした団体との利益相反 (conflict of interest : COI) について、発表時にスライドの最初、または演題・発表者などを紹介するスライドの次に記載してください。なお、COI開示のテンプレートは第54回北海道作業療法学会学術大会ホームページにありますので、参照してください。
- (5) スライド (Microsoft PowerPoint ファイル) は、演者の皆様に後日ご連絡します URL に5月20日までにアップロードしてください。

3. 座長の皆様へ

- (1) 座長は該当セッション開始30分前までに総合受付内の「座長受付」において受付を済ませてください。
- (2) 座長は該当セッション10分前までに、会場内の「次座長席」でお待ちください。
- (3) 質疑応答を演題別、あるいはまとめておこなうか等、セッションの進行方法については座長の判断でお願いいたします。

4. 表彰について

演題審査委員および各セッションの座長による採点を行います。全演者のうち、優秀演題に選ばれた演者を表彰いたします。演者の皆様は閉会式への参加をお願いいたします。

第54回北海道作業療法学会学術大会プログラム

テーマ

「生活行為。その先の共創」

会期

現地会場 2024年6月22日(土) 10:00～6月23日(日) 15:00

オンデマンド 2024年7月13日(土)～7月31日(水)

(特別講演, 大会長シンポジウム, 教育シンポジウム, 市民公開講座のみ)

会場

北ガス文化ホール (千歳市民文化センター)
(千歳市北栄2丁目2番11号)

企画内容

◇特別講演

「作業療法士が対象者と共創する生活行為の先にあるもの」

講師：齋藤 佑樹 氏 (仙台青葉学院大学)

座長：佐々木 努 大会長

日時：6月22日(土) 13:00～14:30 [後日, オンデマンド配信あり]

会場：2階中ホール (I会場)

◇市民公開講座

「加齢と自動車運転～安全&健康に生活するために～」

講師：上村 直人 氏 (高知大学)

座長：佐々木 努 大会長

日時：6月23日(日) 13:30～15:00 [後日, オンデマンド配信あり]

会場：2階中ホール (I会場)

◇大会長シンポジウム

「自動車運転支援における『生活行為。その先の共創』」

シンポジスト：佐々木 努 大会長

岡田 宏基 氏（北海道大学）

小玉 武志 氏（北海道済生会小樽病院みどりの里）

小林 利行 氏（札幌溪仁会リハビリテーション病院）

座長：山田 恭平 氏（北海道千歳リハビリテーション大学）

日時：6月22日（土）10：00～12：00 [後日，オンデマンド配信あり]

会場：2階中ホール（Ⅰ会場）

◇教育シンポジウム

「各領域における『生活行為。その先の共創』」

シンポジスト：荒井 英俊 氏（医療法人ひまわり会札幌病院）

齊藤 崇宣 氏（札幌溪仁会リハビリテーション病院）

谷内 綾香 氏（紋別市地域包括支援センター）

村上 元 氏（新潟医療福祉大学）

座長：金谷 匡紘 氏（北海道文教大学）

日時：6月23日（日）9：30～11：00 [後日，オンデマンド配信あり]

会場：2階中ホール（Ⅰ会場）

◇一般演題（口述）

日時：6月22日（土）14：40～15：40 15：50～16：50 17：00～18：00

6月23日（日）9：30～10：30 11：10～12：10

会場：4階大会議室A（Ⅱ会場）・4階大会議室B（Ⅲ会場）

◇メイクデビュー・セッション

座長：森元 隆文 氏（札幌医科大学）

山田 恭平 氏（北海道千歳リハビリテーション大学）

日時：6月22日（土）17：00～19：00

会場：4階大会議室B（Ⅲ会場）

◇SIGワークショップ

日時：6月22日（土）14：40～15：40 15：50～16：50 17：00～18：00

6月23日（日）11：10～12：10

会場：3階視聴覚室（Ⅳ会場）・3階中会議室2（Ⅴ会場）

学会日程表

1日目 6月22日(土)

	メイン会場 I会場 2階 中ホール	口述会場 II会場 4階 大会議室 A	口述会場 III会場 4階 大会議室 B	SIG会場 IV会場 3階 視聴覚室	SIG会場 V会場 3階 中会議室 2	機器展示 3階 中会議室 1
9:00						
9:30						
10:00	10:00~12:00					
10:30	大会長シンポジウム					
11:00	佐々木努 大会長					
11:30	[座長] 山田恭平 氏					
12:00						
12:30	12:15~12:45 開会式					
13:00	13:00~14:30					
13:30	総合受付					
14:00	2階 中ホール前					
14:30	特別講演 齋藤佑樹 氏					機器展示
15:00	[座長] 佐々木努 大会長					
15:30	14:40~15:40 口述① 身障・中枢 I	14:40~15:40 口述② 身障・地域・その他	14:40~15:40 口述③ 精神 I	14:40~15:40 SIG 北海道災害リハビリテーション 推進協議会	14:40~15:40 SIG 北海道作業療法士会教育部 MTDLP推進委員	
16:00	[座長] 桜庭 聡 氏	[座長] 村上正和 氏	[座長] 岡田宏基 氏			
16:30	15:50~16:50 口述④ 身障・中枢 II	15:50~16:50 口述⑤ 地域・高齢者 I	15:50~16:50 口述⑥ 身障・整形 I	15:50~16:50 SIG 北海道の自動車運転と 移動手段を考える会	15:50~16:50 SIG 北海道視能訓練士会	
17:00	[座長] 片桐一敏 氏	[座長] 岩永輝明 氏	[座長] 早崎涼太 氏			
17:30	17:00~18:00 口述⑦ 身障・その他	17:00~18:00 口述⑧ 発達・その他	17:00~19:00 特別企画 メイクデビュー セッション	17:00~18:00 SIG 札幌高次脳 機能障害研究会	17:00~18:00 SIG 北海道作業遂行研究会	
18:00	[座長] 佐藤飛友悟 氏	[座長] 小玉武志 氏	[座長] 森元隆文 氏			
18:30			[座長] 山田恭平 氏			
19:00						

2日目 6月23日(日)

	メイン会場 I会場 2階 中ホール	口述会場 II会場 4階 大会議室 A	口述会場 III会場 4階 大会議室 B	SIG会場 IV会場 3階 視聴覚室	SIG会場 V会場 3階 中会議室 2	機器展示 3階 中会議室 1
9:00						
9:30						
10:00	9:30~11:00	9:30~10:30				
10:30	教育シンポジウム	口述⑨ 身障・中枢 III				
11:00	[座長] 金谷匡紘 氏	[座長] 堀 翔平 氏				
11:30	11:10~12:10	11:10~12:10	11:10~12:10	11:10~12:10	11:10~12:10	機器展示
12:00	口述⑩ 身障・中枢 IV	口述⑪ 地域・高齢者 II	口述⑫ 身障・整形・脊髄損傷	SIG 北海道ハンド セラピー研究会	SIG 北海道がん・内部障害 作業療法ネットワーク	
12:30	[座長] 成田伸夫 氏	[座長] 高島理沙 氏	[座長] 池田友樹 氏			
13:00	12:15~12:45 閉会式					
13:30						
14:00	13:30~15:00					
14:30	市民公開講座					
15:00	上村直人 氏					
	[座長] 佐々木努 大会長					

市民公開講座

加齢と自動車運転 ～安全 & 健康に生活するために～

演者

高知大学保健管理センター医学部分室

上村直人氏

座長

第54回北海道作業療法学会学術大会大会長

佐々木 努

6月23日(日) 13:30～15:00

I会場 (2階中ホール)



高知大学保健管理センター
医学部分室
上村 直人

加齢と自動車運転～安全&健康に生活するために～

超高齢社会を迎えたわが国では、高齢ドライバーの交通事故が社会的にも全国的な問題となっています。一方で自動運転技術の開発など技術革新も起こり、医療と社会との関係はより複雑化しています。

そのような中、2022年5月13日から新たに施行されました。その主な変更点は、①一定の違反や事故歴のある人を対象に免許更新時に7分程度の「実車試験」が導入されたこと、②認知機能検査がより簡素化されたこと、③自動ブレーキなど安全運転サポート車（サポカー）に限定した免許が創設されたこと、④一定の病気等に該当する疑いがある場合に、公安委員会が診断書提出命令を出せるようになりました。したがって、認知症以外でも糖尿病や心不全などの心臓疾患、睡眠時無呼吸などによる眠気など運転に支障をきたす病気が疑われると、主治医やかかりつけ医に対して医療機関への診断書提出が警察から指示されるため、大きな影響を受けると予測されます。このような運転行動に関する医学的評価が導入されやすくなることは交通事故や違反の予防にもつながる良い面もありますが、一方で地域生活や医療現場での過大な負担にもつながりうるため、高齢者では老化現象に伴う難聴や白内障・緑内障などによる視覚障害、身体疾患や薬物による注意障害や意識障害の有無などをきちんとスクリーニングする手段も併せて検討しておく必要があります。現在、4大認知症と診断されれば運転が実質禁止されていますが、認知症の前段階である軽度認知障害では運転は禁止されていない上に、この時期のリハビリに多くの人が関心を持っています。そこで本講演では、高齢者と運転の問題について老化と認知機能、および認知症の人とその家族、地域生活の支援方法に関して最近議論されているライドシェアの問題を含めて述べてみたいと思います。

上村 直人 (かみむら なおと)

略歴

1997年 高知医科大学大学院卒業
1997年－1999年 同仁病院精神科勤務
1999年 高知医科大学医学部附属病院精神科 助手
2005年 同講師に採用
2022年 高知大学保健管理センター医学部分室 准教授

所属学会

日本精神神経学会 専門医・指導医
日本老年精神医学会 専門医 指導医 評議員
日本認知症学会 代議員
日本神経心理学会 評議員
日本高次脳機能障害学会 評議員

その他

平成29－30年 警察庁 高齢者交通事故防止対策に関する有識者会議 委員

著書

- ・司法精神医学4 民事法と精神医学
- ・老年医学の基礎と臨床Ⅱ－認知症学とマネジメント
- ・専門医のための精神科臨床リュミエール12
- ・認知症臨床の最前線
- ・認知症診療 Q & A 92
- ・認知症ハンドブック
- ・認知症疾患診療ガイドライン2017
- ・高次脳機能障害の自動車運転再開とリハビリテーション 1
- ・日常臨床に必要な認知症症候学
- ・臨床医のための！高齢者と認知症の自動運転 他

特別講演

作業療法士が対象者と共創する 生活行為の先にあるもの

演者

仙台青葉学院大学

齋藤 佑樹 氏

座長

第54回北海道作業療法学会学術大会大会長

佐々木 努

6月22日(土) 13:00～14:30

I会場 (2階中ホール)



仙台青葉学院大学

齋藤 佑樹

作業療法士が対象者と共創する生活行為の先にあるもの

我が国の作業療法は、自分たちが医療の一部であることを宣言することからはじまった。それは早期に診療点数の算定を可能にし、作業療法士の社会的地位の確立に寄与したことは自明であるが、同時に長らく作業療法士を保険点数の枠の中に閉じ込めることにもなった。近年では、地域包括ケアシステムの推進とともに、ようやく作業療法士が活躍する場が少しずつ地域にシフトしてきた。保険外においても、一般企業（健康経営・プロダクト開発）、学校支援、司法、国際協力、教育・研究…etc 様々な場での「開拓者」たちの活躍が以前よりも目立つようになってきた。今後さらに作業療法士が職域を拡大し、Well Beingを実現する社会システムの一役を担う、つまり「その先の共創」を具現化するためには何が必要だろうか。

作業療法士個人については、まず大前提として、場や対象が変化しようとも変わることのない「作業療法の普遍性」を理解していなければならない。作業療法とは「作業を通して健康・幸福を支援する方法」である。あまりに聞き慣れてしまった言葉を丁寧に噛み砕きながら、作業療法の目的、作業療法の普遍性を再確認したい。加えて、一人ひとりの作業療法士が、自身のキャリアデザインについて熟考することも必要であろう。労働時間が厳密に規制され、誰も厳しい指導をしてくれない世界で、また、SNSを介して誰もが少しの努力で「ちょっと詳しい人」になることができってしまう世界で、「自分はどう生きるか」と問う営みからはじめる必要がある。

職能団体としては、社会的認知度の向上が急務であろう。それは単なる「知名度」ではなく、「社会に必要とされる」という意味を含んだ、実績を土台とした認知度である。そのためには、「自分たちは何ができるのか？」を強いエビデンスの集積によって社会にしっかりと示すことが必要である。残念ながら作業療法のエビデンスは、他の近接職種と比較して著しく少ない。良質な事例研究の集積から仮説を生成し、実証研究へと繋げていく相補的なバトンリレーが必要である。社会の変化に対応できる作業療法士を輩出するための質の高い教育も欠かせない。

人と世界の接点である「作業」は無数にある。その作業を専門性の中心に据えることは、難しく、楽しく、そして可能性に満ちている。開拓者たちの活躍が、属人的な成功に終わらないよう、皆で「その先の共創」を形にしていきたい。

齋藤 佑樹 (さいとう ゆうき)

略歴

〈所属・役職等〉

- ・学校法人北杜学園仙台青葉学院大学リハビリテーション学部リハビリテーション学科
作業療法学専攻 専攻長 教授
- ・株式会社エシカル郡山 学術顧問
- ・宮城刑務所 機能訓練アドバイザー
- ・株式会社青海社『臨床作業療法NOVA』編集顧問

〈経歴〉

2000年4月、一般財団法人太田総合病院附属太田熱海病院入職、回復期リハビリテーション病棟、通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、介護老人保健施設、介護療養型医療施設などを経験する。その後、学校法人こおりやま東都学園郡山健康科学専門学校、日本保健医療大学設置準備室を経て、2017年4月より現所属。

〈所属学会・団体等〉

日本作業療法士協会、宮城県作業療法士会、福島県作業療法士会、福島県作業科学研究会（初代会長）、日本臨床作業療法学会（理事）。日本作業行動学会、TEAと質的研究学会、日本ヘルスコミュニケーション学会、日本ヘルスリテラシー学会、日本メディカルコミュニケーション学会、日本医療通訳学会、日本ヘルスマーケティング学会、日本医学サイエンスコミュニケーション学会、日本医療コミュニケーション学会。

〈進行中の競争的資金〉

科学研究費助成事業 基盤研究（C）

「訪問リハにおける利用者の活動・参加を促進する目標設定プロセスの理論化と実証研究」

〈主な著書〉

- ・作業で語る事例報告（医学書院）
- ・作業療法の曖昧さを引き受けるということ（医学書院）
- ・12人のクライアントが教えてくれる作業療法をするうえで大切なこと（三輪書店）
- ・OT臨地実習ルートマップ（MEDICAL VIEW）
- ・活動・参加を支援する！訪問看護・介護・リハビリテーション（CBR） 他

〈主な論文〉

- ・Saito, Y., Tomori, K., Sawada, T., & Ohno, K. (2023). Longitudinal Process of Setting and Achieving Activity-and Participation-Level Goals in Home Rehabilitation in Japan: A Qualitative Study Using Trajectory Equifinality Modeling. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, 20 (9), 5746.
- ・齋藤佑樹, 友利幸之介, 澤田辰徳, 大野勘太. (2022). 訪問リハビリテーションに従事する作業療法士が対象者の活動・参加レベルの目標達成を支援するプロセス－複線径路等至性アプローチ（TEA）による分析の試み－. *作業療法*, 41 (2), 226-238. (2023年学術誌『作業療法』最優秀論文賞) 他

大会長シンポジウム

自動車運転支援における 「生活行為。その先の共創」

シンポジスト

第54回北海道作業療法学会学術大会大会長

佐々木 努

北海道大学

岡田 宏基氏

北海道済生会小樽病院みどりの里

小玉 武志氏

札幌溪仁会リハビリテーション病院

小林 利行氏

座長

北海道千歳リハビリテーション大学

山田 恭平氏

6月22日(土) 10:00～12:00

I会場 (2階中ホール)



北海道千歳リハビリテーション大学
(第54回北海道作業療法学会学術大会大会長)

佐々木 努

予防期の自動車運転と地域移動支援における『生活行為。その先の共創』

高齢者の自動車運転が社会的に注目される昨今、高齢者にとって避けては通れない問題が、「運転の止め時」問題である。運転を止める理由には、ポジティブな事柄もネガティブな事柄もあるが、この問題を広く捉えるならば、運転を止めてからどのように生活し、健康を維持し、幸福感を高めて最期を迎えるのかという問題と言い換えることもできる。作業療法士として自動車運転と地域移動支援に関わる場合には、単に対象者の認知機能が、運転技能が、に留まらず、対象者の価値観に沿い、納得して過ごせる生活の実現を後押ししなければならない。ただ、言うは易く行うは難しである。

作業療法士の自動車運転と地域移動支援の実績は、主として身体障害領域の医療機関で積み上げられてきたといえる。作業療法の実践領域は、身体障害領域以外にも、予防領域、精神障害領域、小児領域、訪問領域などに区分することができる。自動車運転と地域移動は、これらすべての領域に関わってくる生活行為のはずである。しかし、各領域がどのような実践を行っているのか、私の認識では、現状があまり知られていないのではないだろうか。これが、本シンポジウムを企画した始まりである。

予防期を担当する私からは、千歳市の仲間と進めている2つの取り組みを紹介する。一つは、高齢ドライバーサポート事業である。幸い、関連学会での表彰、北海道内外から医療関係者、研究者、自治体職員、公安委員会、報道機関の見学、取材、講師依頼などを受けている。この事業は、地域高齢者の運転寿命延伸と運転を止めた後の健康維持・増進を教育する演習・参加型プログラムである。希望者は、自動車学校での運転能力チェックを受けることができるという特徴もある。もう一つは、千歳市在住の75-80歳を対象とした、運転と健康前向きコホート研究である。外部研究助成と千歳市の協力を得て行っている。このコホート研究は、自動車運転を継続している方、自動車運転を止めた方、元々自動車運転をしていない方(運転免許取得経験がない方)、約1400名の運転状況、生活状況、生活行為別の移動手段と頻度、健康状態、生活満足度、価値観などを3年間前向きにフォローする調査である。本シンポジウムでは、千歳市で実践しているこれら二つの取り組みから得た知見を基に、予防期の自動車運転と地域移動支援における『生活行為。その先の共創』について私見を述べたいと考えている。

佐々木 努 (ささき つとむ)

略歴

広島県出身。認定作業療法士。交通心理士。日本作業療法士協会認定「運転と地域移動支援実践者」。2002年作業療法士免許取得。2007年札幌医科大学大学院博士後期課程修了，2010年信州大学医学部保健学科，2015年北海道千歳リハビリテーション大学，現在に至る。2017年北海道の自動車運転と移動手段を考える会設立（2024年度より北海道作業療法士会地域部に移行）。作業療法士免許取得後，療養型病院，デイケア，回復期リハ病院，大学病院，障害者支援センターで臨床経験。現在は，千歳市で「高齢ドライバーサポート事業」「認知症予防サポート事業」など総合事業に参画。

所属学会・委員

【所属学会】

日本作業療法士協会，北海道作業療法士会，日本高次脳機能学会，日本交通心理学会，日本認知症予防学会，the World Federation of Occupational Therapists

【委員】

運転と作業療法研究会世話人，「作業療法の実践と科学」編集委員長，「作業療法」編集委員，「Asian Journal of Occupational Therapy」Editor

主な業績

【論文】

Learning effects of multiple driving simulator runs in older adults (Sasaki,et.al,2023)，千歳市高齢ドライバーサポート事業の実践報告（佐々木ら，2023），A Scoping Review of the Effectiveness of Driving Training in People with Mild Cognitive Impairment (Sasaki,et.al, 2022)，自動車運転と健康に関する産官学連携地域向け事業の実践報告（佐々木ら，2021）Hazard perception of stroke drivers in a video-based Japanese hazard perception task. (Sasaki,et.al, 2019) など。

【受賞】

第12回日本認知症予防学会学術集会浦上賞，第88回日本交通心理学会優秀発表論文賞，第51回北海道作業療法学術大会優秀演題賞

【著書】

日本作業療法士協会・作業療法マニュアル53：認知機能障害に対する自動車運転支援医療従事者のための自動車運転評価の手引き。原著 Handbook for the Assessment of Driving Capacity, Schultheis MT, DeLuca J, Chute DL, Ed. ELSEVIER 2009など



北海道大学
岡田 宏基

精神障害領域の自動車運転支援 ～本邦における精神科リハビリテーションの発展に向けた共創とは～

精神障害と交通事故や危険運転が関連しているというエビデンスはほとんどないにも関わらず、現在の道路交通法では、統合失調症、躁うつ病は「自動車等の安全な運転に必要な認知、予測、判断又は操作のいずれかに係る能力を欠くこととなるおそれがある症状を呈しないもの」に限って免許を取得できるという規定が存在する。しかし、認知、予測、判断又は操作のいずれかに係る能力を欠くこととなるおそれがある症状をどのように評価するのかコンセンサスは得られていない。本邦において、多くの精神障害者が自動車運転をしている楽観的な報告もあるが¹⁾、統合失調症者の約30%以上の方が治療/薬物療法を開始する際に運転を諦めてしまうというデータもあり²⁾、精神障害領域における運転能力評価、自動車運転支援体制の構築は喫緊の課題である。本邦においては、作業療法士が精神科領域での自動車運転支援に携わることはほとんどない状況であると思われるが、オーストラリア、カナダ、英国を含む一部の国では、作業療法士が安全な自動車運転に向けた評価、介入、モニタリングおよび、医師および免許行政機関との調整役としての役割を果たしている³⁾。これらの地域の作業療法士は、精神科領域であっても「運転は日常生活上作業の一つであるため、運転を評価するのは自然なことだ」と述べている³⁾。海外では、精神障害者の安全運転をサポートする役割を作業療法士が担っていると言える。

本シンポジウムでは、本邦における精神障害者を取り巻く自動車運転支援体制の現状を概観した上で、海外での作業療法士の役割について解説する。また、精神障害者の客観的な運転能力評価に向けた先進的な研究についてまとめ、本邦における精神科領域の自動車運転支援の共創について、主に医師、精神保健福祉士等多職種連携の視点から考察する。

1) 一杉正仁、竹原格編. 臨床医のための疾病と自動車運転. 三輪書店. 2018

2) NPO 法人地域精神保健機構・コンボ編. 精神科薬とリカバリーの現状2021年度版. 2013

3) Menard I, Benoit M, Boule-Ladhzali N, et al.: Occupational therapists' perceptions of their role in the screening and assessment of the driving capacity of people with mental illnesses. Occupational Therapy in Mental Health 28:36-50, 2013

岡田 宏基 (おかだ ひろき)

略歴

2021年2月－現在北海道大学, リハビリテーション科学分野, 助教

2009年4月－2021年1月医療法人慈全会那須高原病院, リハビリテーション科, 副主任

所属学会等

日本統合失調症学会

日本精神障害者リハビリテーション学会

日本安全運転医療学会

主な著書, 論文

Okada H, Morimoto T, Ikeda N., Exploratory` study on driving ability of people with schizophrenia: Relationships among cognitive function, symptoms, and brain activity. Schizophrenia Research 264 290-297 2024

Okada H, Sawamura D, Kunita K, et al., Prefrontal activation during simulated driving in people with schizophrenia: A functional near-infrared spectroscopy study. Psychiatry research 326 115285 2023

岡田宏基 服部真吾 石井里沙 他. 統合失調症者における自動車運転の現状および運転能力 ～ PubMedおよび医学中央雑誌によるシステムティックレビュー～. 精神障害とリハビリテーション 25 (1) 59-68 2021



北海道済生会小樽病院みどりの里
小玉 武志

発達領域での自動車免許所得に求められるもの ～作業療法士と地域社会との「共創」～

子どもの移動支援を考える時に、第一選択肢として運転を思い浮かべる人はいないだろう。もちろん運転免許が18歳にならないと所得ができないことは言うまでもなく、それ以上に小学校、中学校ともに校区が存在しており、文部科学省では小学校を4キロ、中学校を6キロとしている。さらには、児童生徒数の少ない市町村ではスクールバスで対応していることから、発達領域の移動支援は、徒歩が中心となり、最初の移動範囲の拡大には自転車に乗ることが主となるのである。

そのため、発達領域の作業療法では自動車運転において支援できることが少ないと感じている方もいらっしゃるかもしれないが、果たしてそうだろうか？

そもそも自動車運転に必要なスキルとして、運転技術以外に学科試験が求められる。学科の試験に合格するためには、文章の読解力だけではなく、交通ルールを正しく理解することも必要である。これらの認知能力に加え、自動車学校へと規則正しく通学する力、学科教習を粘り強く定期的に学習を行う力、運転中のハンドル操作時の落ち着いた操作と不測の事態に対する咄嗟の判断など、自動車学校に通う時点で習得しておくべき力が無数に存在している。発達領域の作業療法で対象とするお子さんには、これらのスキルの習得が未熟なお子さんが多いこともあり、学童期からの積み重ねが必要であると考えます。

これら発達領域における移動支援に必要な能力について検討をしつつ、現在限られた自動車教習所ではあるものの、発達障害をサポートする仕組みとして行われている「つばさプラン」についても紹介を交えながら、課題を掘り下げていきたい。

発達領域の頃から地域での移動手段の確立に向けた取り組みを、社会全体で「共創」していけるよう、皆さんと考えていきたいと思えます。

小玉 武志 (こだま たけし)

略歴

認定作業療法士。3学会合同呼吸療法認定士。デジタルアクセシビリティアドバイザー。重症心身障害児・者施設である北海道済生会みどりの里に入職。大学院にて博士号を所得した後は、非常勤講師として作業療法学生への教育にも従事している。2017年には海外研修生として2ヶ月間にわたり世界の支援教育や施設の現場を視察。2022年には内閣府の「国際青年育成事業」にも参加。現在は、地域で暮らすお子さんへ医療分野での支援に加え、自身が立ち上げに参画した通所事業所での支援や、学校や幼稚園などの訪問支援にも携わっている。2022年よりNPO法人カケルとミチルの代表理事を務める。

所属学会

日本作業療法士協会／北海道作業療法士会／日本発達系作業療法学会／日本LD学会／日本重症心身障害学会／日本重症心身障害療育学会／日本DCD学会／北海道SI研究会

主な論文

Effects of Seat Cushion Material on Center of Pressure and Movement Trajectory during a Reaching Task (Asian Journal of Occupational Therapy, 2019)

座面素材の違いが脳性麻痺者のリーチ動作中の運動軌跡および座圧中心に与える影響 (日本発達系作業療法学会誌, 2015)

主な著書

- 発達が気になる子の脳と体をそだてる感覚あそび (2017年発売)
- 今日は何してあそぶ? 脳と体をそだてる感覚あそびカード144 (2019年発売)
- 発達が気になる子の学校生活における合理的配慮 (2020年)
- 家庭で育てる 発達が気になる子の実行機能 (2020年)
- 臨床作業療法NOVA (イラストでわかる 生活動作と読み書き支援) (2020年)
- 教室でできるタブレットを活用した合理的配慮・自立課題 (2022年)
- 発達をうながすハンドリング—生活動作の介助のポイント (2022年)
- マンガでわかる読み書き指導 (2022年)



札幌溪仁会リハビリテーション病院
小林 利行

「身体障害領域の自動車運転支援」

身体障害領域における自動車運転支援とは、主として高次脳機能障害を有する脳血管疾患患者に対して行なわれる事が多い。他には脊髄損傷患者、四肢欠損患者などに対しても行なうが、当院において多くはないのが現状であるため、今回は脳卒中後の対象者に対する自動車運転支援について話を進める。法や制度に定められた手続きや、改訂に伴う変更に対応する事が望まれる中、その人らしい生活を念頭に、現場での自動車運転支援に携わる作業療法士がどのように関わっているのか、現状と課題を共有した上で、これからの展望について検討する機会としたい。

自動車運転支援の内容として、神経心理学的検査、ドライブシミュレーター、実車評価がある。神経心理学的検査は日本高次脳機能障害学会が提唱する「自動車運転に関する神経心理学的検査法の適応と判断」に基づいて実施している施設や病院が多い。ドライブシミュレーターでは各メーカーが販売している機器を使用して模擬的に運転技能の評価を実施する。実車評価についてはゴールドスタンダードとされているが、自動車教習所との連携が必要となるため実施出来るのは限られた施設や病院となる。

自動車運転支援は評価結果をもとに、主治医と協議した上で診断書を作成、公安委員会へ提出する流れとなる。ここで運転可、不可となる判断がされれば終了となるが、保留となる場合には、改善を目的にリハビリテーションの継続と再評価を実施する。

実際の現場では、上記の客観的な評価の他に対象者の病前の運転状況や生活状況、生活習慣などをもとに評価を進めることも重要である。評価者の解釈により左右されてしまうことが無いように統制された解釈が必要となる。対象者の心身機能や心理状況、障害の把握など支援には多職種による評価・計画が必要となる。

作業療法士として自動車運転を支援する上で、自動車運転の意味や役割などを把握し、その人らしい生活を支援する事が求められる現在、自動車運転の継続を希望する対象者に対し、支援をする環境は整備をしている段階であり、今後、さまざまな職種や業種との連携、地域サービスも含めて共創していくべき分野であると思われる。

今回当院における自動車運転支援の普及に向けた取り組みや、現在連携している2ヶ所の自動車教習所との状況について述べていく。

小林 利行 (こばやし としゆき)

略歴

北海道出身。北海道作業療法士会札幌支部役員。回復期リハビリテーション病棟協会認定セラピストマネジャー。2009年作業療法免許取得。同年医療法人輝生会初台リハビリテーション病院入職，2015年医療法人東樹会あずまりリハビリテーション病院出向，2017年医療法人初台リハビリテーション病院帰任。2019年医療法人溪仁会札幌溪仁会リハビリテーション病院入職。

所属学会

日本作業療法学会，北海道作業療法士会

教育シンポジウム

各領域における 「生活行為。その先の共創」

シンポジスト

医療法人ひまわり会札幌病院

荒井 英俊 氏

札幌溪仁会リハビリテーション病院

斉藤 崇宣 氏

紋別市地域包括支援センター

谷内 綾香 氏

新潟医療福祉大学

村上 元 氏

座長

北海道文教大学

金谷 匡 紘 氏

6月23日(日) 9:30～11:00

I会場 (2階中ホール)



医療法人ひまわり会 札幌病院
リハビリテーション療法部 課長代理
荒井 英俊

作業療法の適応と進化－身体障害領域－

「患者自身が自身の為にしたい／する事が期待されている生活行為のために自身で行動すること」を助けることが作業療法士の大切な仕事だと考えている。そのために我々作業療法士は患者やその家族、環境といった要素だけではなく、様々なパートナーと相談・連携・管理などを通して関わり、患者や家族の幸福や健康を高めることや、所属する組織や地域の仕組み・サービスに影響を与えている。そしてこれらの作業療法実践は固定されたものではなく、患者や社会、作業療法を取り巻く環境変化に柔軟に対応しながら、オーダーメイド・テーラーメイドで行われ続けており、その意味では学会のテーマである「共創」とは切っても切れない職業といえるだろう。

共創をテーマとし私に与えられた身体障害領域を考えた時、作業療法が社会から必要とされ続けるためには今の社会に「適応」すること、そして、職業として生き残り活躍するためには、挑戦だけではなく偶然性も含めた要素として「進化」することが重要かと思いこのようなタイトルにした。私が考える身体障害領域の特徴に合わせて、以下の①クライアント、②多／他職種チーム、③作業療法の効果、④新たな知見・技術、⑤作業療法士自身の視点から「共創」について述べる。

クライアントと共創では、中途障害者が多く過去の自身・生活と比較しやすい特徴や、目に見える障害と見えない障害が混在し相互に影響しあう特徴から、患者を包括的・総合的にみる重要性、変化に対応し探求する重要性について述べる。

多／他職種チームと共創では、関わる専門職種が多くマネジメントの機会が多い特徴から、24時間365日のマネジメントとOTの専門性を示す重要性について述べる。

作業療法の効果と共創では、定期的に評価結果を得やすく結果を利用する機会が多い特徴から、個別性を意識したプログラムの選択と情報発信の重要性について述べる。

新たな知見・技術と共創では、新たな知見や技術があっても利用／活用には腰が重い特徴から、非医療従事者との連携とテクノロジーの利用の重要性について述べる。

最後に、作業療法士自身と共創では、自身を知り活用することが重要であることから、自身と理論・手技を有効に使い患者に寄り添う重要性について述べる。

他にも重要なことは多くあるが前述の話を中心に進めさせていただく。明日からの臨床の参考になれば幸いである。

荒井 英俊 (あらい ひでとし)

略歴

平成21年3月 国際医療福祉大学 卒業

平成21年4月 - 医療法人ひまわり会 札幌病院 入職

平成30年3月 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 博士課程前期修了

平成31年4月 - 札幌医科大学大学院 訪問研究員

所属学会

- ・ 日本作業療法学会
- ・ 北海道作業療法学会
- ・ 日本臨床作業療法学会
- ・ 北海道作業遂行研究会
- ・ 運動器作業療法研究会
- ・ 認知神経リハビリテーション学会

資格

- ・ 公認心理師
- ・ 認定作業療法士
- ・ 生活行為向上マネジメント指導者
- ・ 臨床実習指導実践研修修了者
- ・ 運転と地域移動支援実践者
- ・ Assessment of Motor and Process Skills (AMPS) 認定評価者
- ・ Assessment of Awareness of Occupational Performance (AAOP) 認定評価者
- ・ Evaluation of Social Interaction (ESI) 認定評価者
- ・ The ADL-focused Occupation-based Neurobehavioral Evaluation (A-ONE) 認定評価者
- ・ ASSESSMENT OF QUALITY OF ACTIVITIES (A-QOA) 認定評価者
- ・ 福祉用具プランナー
- ・ 福祉住環境コーディネーター2級
- ・ 福祉情報技術コーディネーター1級
- ・ 両立支援コーディネーター
- ・ 認知症サポーター
- ・ 高齢者入浴アドバイザー など

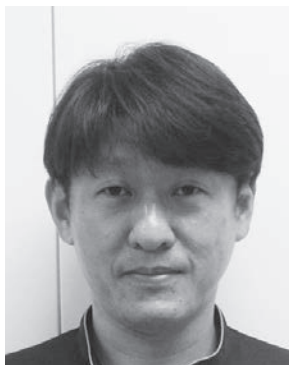
主な論文・学会発表等

修士論文

- ・ ADL能力に対する自己認識をその工程ごとに評定できる評価法の開発

学会発表

- ・ The difference in the improvement of ADL performance and self-awareness by a presence of a feedback (2 case study)
- ・ 失行を呈する患者における生活行為の観察を取り入れた有効性
- ・ 半側空間無視患者に対するロッドアダプテーションが線分二等分試験,ADLの遂行の質に与える効果
- ・ 半側空間無視を認める症例に対するサイドミラーアプローチが空間認知に与える効果
- ・ 「メモリーノートの使用」と「記憶障害の自己認識」の関係について - 記憶障害症例より -
- ・ 脳卒中者における予測が難しいm-FIM項目は何か - 的中度による群別化と比較より -
- ・ 脳卒中患者における「作業の経験」が「作業遂行の困難さについての認識」に与える影響について
- ・ 健常者における運転シミュレーターの実施回数と評価結果の関連について
- ・ 仕事をしている若年健常者の運転技能の日内変化について - 運転シミュレーターの結果より -
- ・ 脳卒中患者における「できるADLとしているADLの差」と「健康統制感」の関係
- ・ m-FIM利得, 及び, 動機づけの視点から見たモーニングケアの効果について
- ・ セラピストが期待する外出訓練の効果を患者はどのように感じているのか など



札幌溪仁会リハビリテーション病院
齊藤 崇宣

子どもと家族の為に必要な「共創」とは何か？

当法人にて小児訪問リハビリテーション事業を開始して、今年で23年目を迎えます。自分は初期の頃から加わらせて頂き、札幌市を中心として子ども達の元へ訪問リハを継続しております。

小児訪問リハの開始当初、札幌でも小児医療としての在宅資源は整っていない状況で、道内遠方からわざわざ札幌に転居して定期診察・外来リハを受けるケースも少なくない状況でした。訪問リハの認知度も低く、「家でリハビリするって何？」という印象を持つご家族も多かったです。その後、特別支援教育といった新たな枠組みや重症心身障害児が通える養護学校の整備、医療的ケア児という新しい言葉と共に法・制度の整備が進み、NICU退院後の子どもへの対応を可能とした訪問看護ステーションや通所系事業所が開設されるなど、ここ15年で全国的に様々な変化がありました。現在、都市部である札幌市の小児リハ資源は徐々に充足してきていると言ってしまうではありません。そのご家族なりの生活スタイルや考えに合わせて、リハビリなどの支援を受ける場所・方法を選択出来る様になってきました。

さて、今回の学会テーマにもある「共創co-creation」とは、多様な立場の人々が、新たな価値を共に創造していくことを意味します。ご家族が自分たちの生活を主体に、様々な選択をされている状況を踏まえ、小児訪問リハの立場としてどの様な「共創」が必要なのかを考えてみたいと思います。

これまで小児訪問リハを継続している中で、少子高齢化や所得・地域格差、医療的ケア児から発達障害児・者までといった障害像の多様化、家族の形の変化やライフスタイルの変容など、最近では子どもや家族の「多様性・多元性」という流れを強く感じるようになりました。これからは、持続可能な社会や支援サービスの維持・拡大を図る為に、多職種などの協働によって地域に根差した問題に対応するだけでなく、個々の子ども・家族が抱えている課題を見逃すことなく、フォーカスされていく考え方が重要だと思います。そういった多様性・多元性である現代において、どの様な共創が必要なのか。また、その為のOT像とは何か、自分なりの考えを学会当日の発表でさせて頂ければと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

齊藤 崇宣 (さいとう たかのぶ)

略歴

2000年3月 作業療法士免許取得

2000年4月 医療型障害児入所施設 緑ヶ丘療育園 入職

2004年1月 医療法人溪仁会へ入職

訪問看護ステーションからの小児訪問リハビリに携わる

2008年4月 札幌西円山病院 訪問リハビリテーション科へ異動

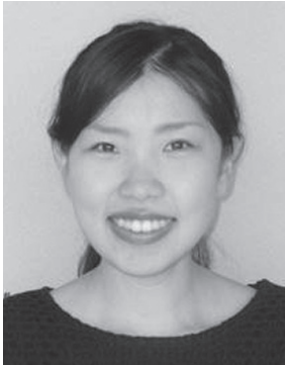
2017年6月～札幌溪仁会リハビリテーション病院 訪問リハビリテーションさくら
現在に至る

所属学会

北海道作業療法士会

日本作業療法士協会

日本訪問リハビリテーション協会



紋別市地域包括支援センター
谷内 綾香

支え合いの地域づくりにおける地域住民との共創

全国において少子高齢化が進行し、高齢者を含む地域住民を取り巻く環境は大きく変化している。紋別市の人口（R 6年3月現在）は20,211人、うち65歳以上の人口は7,533人、高齢化率は37.3%と3割を超えている。本市においては、高齢者数は減少傾向にあるものの生産年齢人口減少により、高齢化率は増加していくと予想されており、医療・介護のみならず担い手不足が深刻化している状況下にある。

高齢になっても住みなれた地域で自分らしく暮らし続けるためには、医療・介護・生活支援・介護予防・住まいを一体的に確保される地域包括ケアシステムの構築が必要とされている。その中の「生活支援」「介護予防」の取り組みは、地域住民とともに地域づくりを推進していくことが重要であるが、「生活支援コーディネーター」がその役割を担っている。本市では、H30年度より紋別市地域包括支援センターが生活支援体制整備事業を受託、センターの作業療法士が生活支援コーディネーターとなり、支え合いの地域づくりを推進していくこととなった。その事業は、多様な生活支援体制の充実・強化および高齢者の社会参加の推進を目的に、地域の実状に合わせながら、地域づくりを進めていく地域支援事業の一つである。

本市での取り組みは主に2つで、1つは、高齢者の介護予防・健康増進を目的とした住民自身が行う体操等の通いの場づくり、また住民同士の支え合いの強化を目的として高齢者の社会参加、住民同士がつながることができる集いの場の開催である。もう一つは、そういった活動を一緒に支えてくれる担い手の発掘や養成、そして住民の担い手の活動の場の拡大である。

実際のところは、地域の作業療法士として何か先進的であったり、新しい展開をしていたりするわけではなく、他市町村の取り組みも大いに参考にしながら、手探りで取り組んでいる状況である。その中で、地域住民の声は必要不可欠で、私自身1人の地域住民との関わりから体操の通いの場の立ち上げに至った経緯がある。私は、作業療法の考えである「人は作業をすることで元気になれる」ということを大切に、住民の皆様と「共創」して地域づくりを進めていきたいと考える。

谷内 綾香 (たにうち あやか)

略歴

H24 (2012) 年 3 月 北海道千歳リハビリテーション学院 卒業

H24 (2012) 年 4 月 医療法人社団旭豊会 旭川三愛病院 (～H27年 6 月)

H29 (2017) 年 7 月 一般社団法人北海道総合在宅ケア事業団 紋別市地域包括支援センター
(～現在)

所属学会等

日本作業療法士協会

北海道作業療法学会



新潟医療福祉大学
村上 元

精神障害領域の作業療法士と共創

精神障害領域において共創（Co-Creation）は、共同創造（Co-Production）という概念で説明されることが多い。共同創造は、サービス提供者とサービス利用者が対等な立場で取り組むことを指すが（宮本，2021），精神科領域では計画過程から当事者との共同を求める共創という概念も含めて共同創造と表現されることがある。代表的な取り組みとして，医療機関や福祉施設におけるピアワーカー（ピアサポーター・ピアスタッフ）との支援があり，その効果も検討されている（Åkerblom et al., 2023）。その他の取り組みとして，教育学的アプローチであり，本人の学びたいものを学ぶ場の提供を通してリカバリーを促進する実践であるリカバリーカレッジといった試みも始まっている（宮本，2021）。作業療法士とピアワーカーの共創としては，例えば，小笠原ら（2023）の福祉領域におけるピアワーカーとの活動や，横山ら（2021）のように研究という領域において計画段階から当事者と活動する試みも報告されている。今後作業療法士と精神障害当事者との共創が全国に広がることが期待される。

一方，精神障害領域における作業療法士は，当事者やその家族に加えて，他職種，他業種との共創も可能である。特に，これまで多くの作業療法士が病院内の業務に従事していたことから，他職種や他業種との共創という点において様々な可能性を秘めている。例えば，精神障害の予防という観点では，労働者のメンタルヘルスケア対策を目的とした企業との共創，成人期の神経発達症患者の二次障害予防を目指した児童領域の作業療法士との共創といったことも可能である。

そこで，本シンポジウムでは，精神障害領域における共創や共同創造について整理するとともに，発表者がこれまでに実施した共創，すなわち，医療機関においてピアワーカーと働いた経験に加えて，地域における精神障害当事者との取り組み（村上ら，2020）や，企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み（村上ら，2022），他領域の作業療法士との取り組み（村上ら，2024）を紹介し，精神障害領域の作業療法士の共創について検討する。

村上 元 (むらかみ つかさ)

略歴

作業療法学博士。作業療法士。臨床発達心理士。公認心理師。国際スキーマ療法協会認定セラピストスタンダードレベル。SST普及協会認定講師。精神科病院や精神科クリニックでの勤務，大学教員を経て現職。

所属学会等

International Society of Schema Therapy，一般社団法人SST普及協会，日本認知・行動療法学会，一般社団法人日本臨床発達心理士会，日本作業療法士協会 等

主な著書，論文

- ・早坂 友成，岩根 達郎，森元 隆文（編著）：精神科リハビリテーション評価法ハンドブック，中外医学社。（分担執筆）
- ・村上 元，森元 隆文，三浦 由佳，池田 望：地方都市における“誰でも参加できるSST”の実践報告．作業療法 39：248-254, 2020.
- ・村上 元，森元 隆文，清本 憲太，池田 望：小規模事業場における作業療法士によるメンタルヘルス対策—．作業療法ジャーナル 56：572-576, 2022.
- ・村上 元，荻野 圭司，山田 智子，森元 隆文，池田 望：放課後等デイサービスにおけるPEERSの有効性の検討—対面とオンラインのハイブリッドによる実施—．作業療法の実践と科学 6：1-10, 2024.

演題プログラム

口 述 発 表

口述① 身障・中枢Ⅰ

6月22日(土) 14:40-15:40 メイン会場 (Ⅰ会場)
座長: 北海道医療大学 桜庭 聡氏

- I-01-01 **小脳損傷後の認知機能障害によりリスク管理が困難だった一症例**
○佐藤淳一郎¹⁾, 片桐 一敏¹⁾
1) 医療法人喬成会 花川病院
- I-01-02 **脳梗塞患者における急性期と回復期を併せた総入院期間を予測するための急性期病院入院時因子の検証**
○松本 幸樹¹⁾, 加藤 拓彦²⁾, 澄川 幸志³⁾, 田中 真²⁾, 高見 彰淑²⁾
1) 旭川赤十字病院リハビリテーション科, 2) 弘前大学大学院保健学研究科
3) 福島県立医科大学 保健科学部 作業療法学科
- I-01-03 **重度の意識障害を呈した対象者に対する感覚刺激や作業を用いた支援**
○網塚小太郎¹⁾, 麓 文太¹⁾, 大山 峻佑¹⁾, 菊池 祐介²⁾, 高橋 肇³⁾
1) 高橋病院リハビリテーション科, 2) 東北福祉大学リハビリテーション学科
3) 高橋病院 (医師)
- I-01-04 **内的側面の数値化によって訓練に能動的に取り組めるようになった失語症者の経験**
○高田 朱里¹⁾, 神田 亮¹⁾, 工藤 章¹⁾, 杉原 俊一¹⁾, 藤原 雄介²⁾
1) 札幌秀友会病院 リハビリテーション科, 2) 札幌秀友会病院 脳神経外科
- I-01-05 **クレヨン画を行い、書字の審美性が向上した一症例**
○中川 夢人¹⁾
1) 社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会リハビリテーション病院

口述② 身障・地域・その他

6月22日(土) 14:40-15:40 口述会場 (Ⅱ会場)
座長: 日本医療大学 村上 正和氏

- I-02-01 **急性心筋梗塞後に心停止を呈した高齢患者の集中治療から自宅退院までの急性期作業療法—事例報告—**
○池田 友樹¹⁾, 山田 恭平²⁾, 館 博明¹⁾, 藤原 満久¹⁾, 高橋 将成³⁾
1) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 北海道病院 リハビリテーション部
2) 北海道千歳リハビリテーション大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
3) 独立行政法人 地域医療機能推進機構 北海道病院 循環器内科
- I-02-02 **増悪するリンパ浮腫に対し多職種で協業し集中排液介入を行った一例**
○中川 あや¹⁾, 田中 聡美¹⁾, 大段 裕樹¹⁾, 高橋 日子¹⁾, 堀 加奈子¹⁾
1) 北見赤十字病院

- I-02-03 **鶴岡式包丁操作が上肢筋活動に与える影響**
 ○大坂 隆介^{1, 2)}, 金子 翔拓¹⁾
 1) 北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
 2) 札幌医科大学大学院 保健医療学研究科 博士課程後期
- I-02-04 **入院のストレスにより不安を呈していた事例に対し他者交流・役割の提供をしたことで落ち着いた生活に繋がった事例**
 ○武井このみ¹⁾, 後藤 祐希¹⁾, 齋藤雄一郎¹⁾
 1) IMSグループ 医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院
- I-02-05 **Nostalgiaを誘発させる語りを対象者に及ぼす効果～文献レビューを通して～**
 ○柴田 皓平¹⁾, 高島 理沙²⁾
 1) 北海道大学医学部保健学科作業療法専攻, 2) 北海道大学大学院保健科学研究院

□述③ 精神 I

6月22日(土) 14:40-15:40 □述会場 (Ⅲ会場)

座長: 北海道大学 岡田 宏基 氏

- I-03-01 **記憶障害を呈し, 自閉的な生活を送っていた症例に対する精神科作業療法の関わり～個別から集団へ～**
 ○田中 望¹⁾, 泊り由希子²⁾
 1) 社会医療法人社団 三草会 千歳桂病院, 2) 北海道千歳リハビリテーション大学
- I-03-02 **医療観察法病棟での認知矯正療法により認知機能の著明な改善と援助希求の促進に至った統合失調症の事例**
 ○國田 幸治^{1, 2)}, 森元 隆文³⁾, 賀古 勇輝¹⁾
 1) 北海道大学病院附属司法精神医療センター, 2) 北海道大学病院リハビリテーション部
 3) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科
- I-03-03 **NEARとクロザピン併用により認知機能の回復が見られた統合失調症の一例**
 ○駿河 勇太^{1, 2)}, 賀古 勇輝¹⁾
 1) 北海道大学病院附属司法精神医療センター, 2) 北海道大学病院 リハビリテーション部
- I-03-04 **アルコール依存症患者への就労支援ー飲酒以外での解決方法を身に付けるー**
 ○本間 悠暉^{1, 2)}, 平泉めぐみ¹⁾, 山下 聖子¹⁾
 1) 医療法人北仁会 旭山病院 リハビリテーション部
 2) 北海道文教大学 リハビリテーション科学研究科
- I-03-05 **異食の改善, 身体拘束解除に寄与できたアルツハイマー型認知症の事例**
 ○内藤 弘貴¹⁾
 1) 函館渡辺病院

□述④ 身障・中枢Ⅱ

6月22日(土) 15:50-16:50 メイン会場 (Ⅰ会場)

座長: 花川病院 片桐 一敏 氏

- I-04-01 **能動的感覚再学習を実施し箸操作が可能となった一例**
○鈴木 蓮¹⁾, 島森諒太郎¹⁾
1) 医療法人孝仁会 釧路孝仁会リハビリテーション病院
- I-04-02 **脳卒中片麻痺患者の麻痺側肩甲帯からの介助が立ち上がり動作に与える影響**
○森田 紘弥¹⁾, 森田 和幸¹⁾, 荒 洋輔²⁾, 阿部 正之²⁾, 白坂 智英³⁾
1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科
2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 先進リハビリテーション推進部
3) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科
- I-04-03 **下衣の固定性を高めた自助具を作成して下衣更衣動作の自立に至った症例**
○高橋 七瀬¹⁾
1) 医療法人 道南勤労者医療協会 函館稜北病院
- I-04-04 **食事に焦点を当て、ライフヒストリーカルテを活用した実践により、生活行為が改善した一例**
○島森諒太郎¹⁾
1) 釧路孝仁会リハビリテーション病院
- I-04-05 **覚醒不良による重度コミュニケーション障害を呈した妻とのコミュニケーションをもう一度獲得できた事例**
○岩間穂乃実¹⁾, 齋藤雄一郎¹⁾, 有働 克也¹⁾
1) IMSグループ イムス札幌内科リハビリテーション病院

□述⑤ 地域・高齢者Ⅰ

6月22日(土) 15:50-16:50 □述会場 (Ⅱ会場)

座長: 札幌・すがた医院 岩永 輝明 氏

- I-05-01 **旭川市における保険外サービス(訪問形式の自費リハビリ)の事業内容と現状について**
○高橋 勇葵¹⁾
1) 訪問形式の保険外リハビリサービス あいびー
- I-05-02 **千歳市における住民主体の介護予防活動支援の取組み**
○山北 武¹⁾
1) 千歳市介護予防センター
- I-05-03 **当施設での移行支援加算取得に向けた取り組みと、家庭内の役割を再獲得してデイサービスへと移行できた事例について**
○和田 明莉¹⁾, 福島 雅弘¹⁾
1) 社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設コミュニティホーム白石

- I-05-04 **通いの場の参加者に対する自立支援型個別地域ケア会議の実施
—介護予防事業におけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチの融合—**
○千葉 望¹⁾, 高田 映¹⁾, 深澤 優太²⁾
1) 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会札幌市南区介護予防センターまこまない
2) 社会福祉法人札幌市社会福祉協議会札幌市南区第3地域包括支援センター
- I-05-05 **ICTを活用した遠隔リハビリテーションにより活動性の向上が認められた一例**
○三野宮裕樹¹⁾, 山中 佑香¹⁾, 林 知代¹⁾
1) 済生会小樽病院

□述⑥ 身障・整形 I

6月22日(土) 15:50-16:50 □述会場 (Ⅲ会場)
座長: 札幌医科大学 早崎 涼太氏

- I-06-01 **肩関節痛を訴える患者の誘因動作の検討**
○矢田 翔馬¹⁾, 林 弘樹¹⁾, 金子 翔拓²⁾
1) 篠路整形外科, 2) 北海道文教大学大学院リハビリテーション科学研究科
- I-06-02 **COPMを用いた作業療法介入によりTHA術後早期の靴下着脱動作の満足度が向上した一症例**
○谷島 溪作¹⁾, 鷺野 紗季¹⁾, 家入 章¹⁾, 石田 和宏¹⁾, 安部 聡弥²⁾
1) 医療法人社団我汝会えにわ病院 リハビリテーション科
2) 医療法人社団我汝会えにわ病院 整形外科
- I-06-03 **左人工膝関節全置換術後の跪き動作における心理的要因に対して認知再構成法の手法を取り入れた一症例**
○片山 理樹¹⁾, 宮城島一史¹⁾, 大窪 悠真¹⁾, 石田 和宏¹⁾, 田中 大介²⁾
1) 我汝会 えにわ病院 リハビリテーション科, 2) 我汝会 えにわ病院 整形外科
- I-06-04 **PIP関節部に疼痛を訴えたばね指症例に対する装具療法**
○林 弘樹^{1,2)}, 矢田 翔馬¹⁾, 金子 翔拓³⁾
1) 医療法人社団篠路整形外科 リハビリテーション科
2) 北海道文教大学大学院リハビリテーション科学研究科
3) 北海道文教大学 医療保健科学部 リハビリテーション科 作業療法学専攻
- I-06-05 **長母指屈筋腱皮下断裂に対して浅指屈筋腱を用いて機能再建を行った症例の経験**
○佐藤 大樹¹⁾, 南 真依¹⁾, 吉川 達己¹⁾, 迫田 美香¹⁾, 佐藤 攻²⁾
1) 社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院リハビリテーション科
2) 社会福祉法人函館厚生院函館五稜郭病院整形外科

□述⑦ 身障・その他

6月22日(土) 17:00-18:00 メイン会場 (I会場)
座長: 札幌・すがた医院 佐藤飛友悟氏

- I-07-01 **生活行為向上に向けたパーキンソン病の立位訓練の検討**
○木村 明博¹⁾
1) 医療法人社団 研仁会 北海道脳神経外科記念病院
- I-07-02 **施設へ入所しているパーキンソン患者に対する家族とのコミュニケーション支援を実施した一例**
○戸田 光芽¹⁾, 佐藤飛友悟¹⁾
1) 札幌すがた医院
- I-07-03 **具体的な合意目標の設定にSEIQoL-DWが有用であった事例**
○鮫島 陵¹⁾, 富居 泰臣¹⁾, 石川 朝子¹⁾
1) 医療法人溪仁会 札幌西円山病院
- I-07-04 **慢性疼痛で悩んでいる患者の大事な作業を再獲得した事例～認知行動療法を用いて～**
○山本 紘暉¹⁾, 南部 浩志¹⁾, 山口 恵美¹⁾
1) 医療法人溪仁会 定山溪病院 リハビリテーション部 作業療法科
- I-07-05 **トランプカードの操作課題により手指機能の改善を認めた生活期脳卒中者の一例**
○福島 雅弘¹⁾, 和田 明莉¹⁾
1) 社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設コミュニティホーム白石

□述⑧ 発達・その他

6月22日(土) 17:00-18:00 □述会場 (II会場)
座長: 北海道済生会小樽病院みどりの里 小玉 武志氏

- I-08-01 **作業療法士の専門性を活かした授業～公開授業の一日講師を経験して～**
○馬道 健弘¹⁾, 中城 雄一¹⁾, 森若 文雄¹⁾
1) 医療法人北祐会 北海道脳神経内科病院
- I-08-02 **小学校特別支援学級で行う自立活動への作業療法支援
—運動機能評価に基づく指導で成果が示された1事例—**
○池田 千紗¹⁾, 中島そのみ²⁾, 清水 夕貴³⁾, 仙石 泰仁²⁾
1) 北海道教育大学札幌校, 2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科 作業療法学第二講座
3) 北海道教育大学 大学院教育学研究科 高度教職実践専攻
- I-08-03 **遊びや興味の拡大に向けて関わり方を工夫したコフィン・シリス症候群の一例**
○石原 綾音¹⁾, 迫 知輝¹⁾, 阿部 正之^{1,2)}, 白坂 智英³⁾
1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科
2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 先進リハビリテーション推進室
3) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科

- I-08-04 作業の視点に基づいた青年期（大学生）における「自立質問紙」の作成について
～質問紙尺度化と尺度構造に関する計量学的検討～
○高橋 李佳¹⁾, 鎌田 樹寛¹⁾
1) 北海道医療大学 リハビリテーション科学部 作業療法学科
- I-08-05 本校の通所または訪問リハビリテーション臨床実習に関する臨床実習指導者へのアンケート調査
○鈴木 渉¹⁾, 川上 和敏¹⁾
1) 北都保健福祉専門学校

□述⑨ 身障・中枢Ⅲ

6月23日(日) 9:30-10:30 □述会場(Ⅱ会場)
座長: 札幌溪仁会リハビリテーション病院 堀 翔平氏

- I-09-02 木彫り（作業活動）を行い、上肢機能に改善を認めた一症例
～作業を機能的側面から考える～
○苗代幅貴史¹⁾
1) 社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会リハビリテーション病院
- I-09-03 右中大脳動脈M1閉塞に伴う左半側空間無視と左重度麻痺側上肢における治療選択の再考
○片桐 一敏¹⁾, 山田 歩¹⁾, 中内 勇介¹⁾, 生駒 一憲²⁾
1) 医療法人 喬成会 花川病院 リハビリテーション部, 2) 医療法人 喬成会 花川病院
- I-09-04 学習性不使用の回復期脳卒中患者に対してTransfer packageのコンセプトに則り実生活での麻痺手の使用を促した試みー事例報告ー
○齋藤 陽¹⁾, 堀 翔平¹⁾
1) 札幌溪仁会リハビリテーション病院
- I-09-05 脳卒中重度上肢麻痺に対してアルゴリズムフローを用いた訓練効果
○中内 勇介¹⁾, 片桐 一敏¹⁾
1) 医療法人 喬成会 花川病院リハビリテーション部
- I-09-06 Mirror Therapyと電気刺激による複合的な上肢機能アプローチを試みた症例
○佐藤 祐太¹⁾, 阿部 正之^{1,2)}, 荒 洋輔^{1,2)}, 白坂 智英³⁾
1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法学科
2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 先進リハビリテーション推進室
3) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科

□述⑩ 身障・中枢Ⅳ

6月23日(日) 11:10-12:10 メイン会場 (Ⅰ会場)

座長: 苫小牧東病院 成田 伸夫氏

- I-10-01 **自発性の低下と左半側空間無視を呈した対象者への食事動作の獲得に向けた介入**
○島津 慶大¹⁾, 目黒 文彦²⁾, 酒谷 景介¹⁾, 野田 正貴¹⁾, 高橋 肇³⁾
1) 高橋病院リハビリテーション科, 2) 専門学校北海道リハビリテーション大学校
3) 高橋病院 (医師)
- I-10-02 **外来にてドライビングシミュレータや自主訓練を用いて運転再開に繋がった症例**
○木下 和海¹⁾, 荻野さゆり²⁾, 一色 健二³⁾, 阿部 正之^{1,4)}, 白坂 智英⁵⁾
1) 社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科
2) 社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 臨床心理科
3) 帯広自動車学校 技能検定員
4) 社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセンター 先進リハビリ推進室
5) 社会医療法人 北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科 医師
- I-10-03 **多様な視空間認知障害の改善に応じた介入により食事, 移動の再獲得に至った脳梗塞患者の一症例**
○宮嶋 聖奈¹⁾, 工藤 章¹⁾, 山田 恭平²⁾, 杉原 俊一¹⁾, 新明 史江¹⁾
1) 札幌秀友会病院リハビリテーション科
2) 北海道千歳リハビリテーション大学 健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学専攻
- I-10-04 **脳卒中後の自動車運転中断の意思決定要因の違いが作業参加に及ぼす影響**
○那須 識徳¹⁾, 山田 恭平²⁾, 佐々木 努²⁾
1) 農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 作業療法科
2) 北海道千歳リハビリテーション大学
- I-10-05 **右頭頂葉・両側前頭葉の脳梗塞により多彩な高次脳機能障害を呈し, 手の使用に困難さを認めた事例**
○東畑 有祐¹⁾, 麓 文太¹⁾, 千田 芳明¹⁾, 高橋 肇²⁾
1) 高橋病院リハビリテーション科, 2) 高橋病院 (医師)

□述⑪ 地域・高齢者Ⅱ

6月23日(日) 11:10-12:10 □述会場 (Ⅱ会場)

座長: 北海道大学 高島 理沙氏

- I-11-01 **作業のバリエーションの変化が生活満足度に影響を及ぼさなかった事例**
○花田 陽南¹⁾, 朝倉 真未¹⁾, 齊藤雄一郎¹⁾
1) IMS (イムス) グループ医療法人社団明生会イムス内科リハビリテーション病院
- I-11-02 **LAESによる語りが意欲改善にもたらす影響**
○片貝 捺音¹⁾, 朝倉 真未¹⁾, 齊藤雄一郎¹⁾
1) IMS (イムス) グループ医療法人社団明生会 イムス札幌内科リハビリテーション病院

- I-11-03 **自信への繋がりによって通所リハビリテーションを卒業できた事例**
 ○藤田 宙也¹⁾, 福島 雅弘¹⁾, 魚住 仁美¹⁾
 1) 社会福祉法人溪仁会 介護老人保健施設コミュニティホーム白石
- I-11-04 **通所介護事業所での封入体筋炎患者に対する関わり -筋力に着目して-**
 ○佐々木翔平^{1,2)}, 藤本 侑也²⁾, 影山 黎弥²⁾
 1) 北海道医療大学 リハビリテーション科学研究科
 2) (株)NOYAU 指定通所介護事業所 千代田町リハビリセンター
- I-11-05 **家屋調整のスキルとその要因**
 ○佐藤風舞貴¹⁾, 森田 和幸¹⁾, 荒 洋輔¹⁾, 阿部 正之¹⁾, 白坂 智英²⁾
 1) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター リハビリテーション部 作業療法科
 2) 社会医療法人北斗 十勝リハビリテーションセンター 診療部 リハビリテーション科 医師

□述⑫ 身障・整形・脊髄損傷

6月23日(日) 11:10-12:10 □述会場(Ⅲ会場)

座長: JCHO 北海道病院 池田 友樹 氏

- I-12-01 **MTDLPを活用し“意味のある作業”である仕事を再開することが出来た1症例**
 ○小島 佳祐¹⁾
 1) 花川病院
- I-12-02 **回復期におけるMTDLPを活用した他職種との生活行為の共創
 -不全麻痺を有する大腿骨頸部骨折の事例を通じて-**
 ○池内 直人¹⁾, 早崎 涼太²⁾, 中川 智徳¹⁾, 久木崎 航³⁾
 1) 北樹会病院, 2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科
 3) 株式会社未来図Labo 研究事業部
- I-12-03 **情報機器作業時の頸椎肢位の違いによる脊髄興奮性の検討
 ~誘発筋電図検査F波測定検証 シングルケーススタディ~**
 ○金子 翔拓¹⁾, 清水 美月¹⁾, 遊佐 美緒¹⁾, 佐藤 若菜¹⁾, 原田 桃子¹⁾
 1) 北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科作業療法学専攻
- I-12-04 **男性頸髄損傷者の性機能障害と出産までのプロセス**
 ○佐藤 航平¹⁾, 京谷 政昭¹⁾, 菊地 咲輝¹⁾
 1) 北海道せき損センター 中央リハビリテーション部
- I-12-05 **高位頸髄損傷者の褥瘡に対する作業療法士の介入**
 ○菊地 咲輝¹⁾, 佐藤 航平, 京谷 政昭, 小島虎太郎
 1) 北海道せき損センター 中央リハビリテーション部

メイクデビュー・セッション

メイクデビューセッション

6月22日(土) 17:00-19:00 口述会場(Ⅲ会場)

座長:札幌医科大学 森元 隆文氏 / 北海道千歳リハビリテーション大学 山田 恭平氏

- I-S-01 **軟式野球選手における投球数と肘関節内側側副靭帯の緩みの関係について**
○佐賀 歩夢¹⁾, 後藤 太玖¹⁾, 及川 直樹¹⁾
1) 日本医療大学
- I-S-02 **前腕筋電義手制御に用いる手関節伸筋と屈筋の同時収縮法の検討
ー健常者に対する表面筋電計を用いた解析ー**
○真田 兼臣¹⁾, 小松 柚楽¹⁾, 千石 優里¹⁾, 白戸 力弥¹⁾
1) 北海道文教大学
- I-S-03 **地域高齢者を対象にした運転寿命延伸トレーニングの学生実践報告
ー千歳市高齢ドライバーサポート事業ー**
○堀 翔真¹⁾, 中村 未奈¹⁾, 佐々木 努²⁾, 山田 恭平²⁾, 山北 武³⁾
1) 北海道千歳リハビリテーション大学
2) 北海道千歳リハビリテーション大学作業療法学専攻
3) 千歳市介護予防センター
- I-S-04 **皮膚エリテマトーデスに対する精神ストレスの影響を検証する皮膚病態モデルの構築
ー細胞生物学研究の作業療法への展開ー**
○中野 世那¹⁾, 山本 瀬菜²⁾, 齋藤 悠城³⁾, 千見寺 貴子²⁾
1) 北海道大学医学部保健学科
2) 北海道大学大学院保健科学研究院
3) 札幌医科大学医学部解剖学第二講座
- I-S-05 **健常大学生を対象とした反すう, 注意制御, 社会的スキルの関連の検討**
○丸山 萌果¹⁾, 森元 隆文²⁾
1) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科(学生)
2) 札幌医科大学保健医療学部作業療法学科
- I-S-06 **認知症患者の主観的幸福感が改善した我が国の作業療法の文献検討**
○山本日実子¹⁾, 本家 寿洋²⁾
1) 北海道医療大学
2) 北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科

SIG ワークショップ

災害時リハビリテーション支援マニュアルの紹介と能登半島地震活動報告

北海道災害リハビリテーション推進協議会・
北海道作業療法士会災害対策委員会
吉岡 英章、石井 陽史、小渡 充
小林 里美、木賊 弘明、古郡 恵

講師

氏家記念こどもクリニック 古郡 恵
定山溪病院 有泉 涼太 先生

北海道災害リハビリテーション推進協議会が、作成した「災害リハビリテーション支援マニュアル」には、災害リハビリテーション（以下、災害リハ）を学びたい方が、どんな知識が必要か、日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）とは何か、発災して派遣までの流れ、派遣時の携行品、などがわかりやすく書かれている。

令和6年1月1日16時10分頃にM7.6（最大震度7）の地震が、石川県能登地方に発生した。地震による津波、土砂崩れ等により、1月中旬時点では、死者は213名、避難所は約400カ所開かれ、避難者数は23,650人おり、災害関連死もすでに起きるなど大きな被害となっている。

JRATより北海道JRAT（DoRAT）に派遣要請があり、1月18日1次隊が派遣され、現在7次隊が現地で活動している（3月現在）。3次隊（1/29～2/2）で活動した有泉先生より現地の様子や活動内容を伺い、マニュアルと比較しながら、災害リハの実際を知る機会とする。

- 14:40 挨拶・プログラム・講師紹介（5分）
- 14:45 災害時リハビリテーション支援マニュアルの紹介（10分）
- 14:55 能登半島地震 活動報告（40分）
- 15:35 質疑応答（5分）
- 15:40 終了

臨床実習にMTDLPを使ってみよう！

推進委員 荒井 英俊, 浅野 祐平
阿部 純平, 小島 佳祐
酒谷 景介, 土橋 大基
宮田 友樹, 森田 和幸

生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）とは、作業療法をICFと熟練した作業療法士の臨床思考をもとにマニュアルとツールを活用することで、臨床実習生を含め、誰にでも分かりやすく示すことのできる道具です。

2020年に適用された、理学療法士及び作業療法士の学校養成施設指定規則による新しい理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインには、臨床実習の方法について、「評価実習と総合臨床実習については、実習生が診療チームの一員として加わり、臨床実習指導者の指導・監督の下で行う診療参加型臨床実習が望ましい」とされていますが、臨床現場と教育現場の間で診療参加型臨床実習が現場ごとでのあり方に基づく、その方法がまちまちとなる懸念があり、臨床教育の統一性を保つためにはMTDLPを活用した作業療法参加型臨床実習が必要です。

また、日本作業療法士協会の「作業療法臨床実習の手引き（2022）」には MTDLP を臨床実習で活用する4つの利点として、「学内教育で学んだことが臨床実習につなげやすい」「アセスメントやプラン立案のための臨床推論のツールであるため、「統合と解釈」、すなわち対象者の全体像が把握しやすい」「作業療法の臨床過程そのものであるため、学生に実際の支援を経験させやすい」「臨床実習で使用することで、卒後教育へつなげることができる」ことが挙げられています。

しかし、MTDLPを活用した臨床実習は少ない現状にあり、その改善が必要な状況にあります。そこで今回のワークショップでは、養成校の教員とMTDLPの基礎研修修了者（5年目以上）を対象とした「MTDLPを用いた臨床実習について」のアンケート結果を含めた、作業療法参加型臨床実習についての講演と、MTDLPを用いた臨床実習の実践報告を企画しました。ぜひこの機会のご参加のほどよろしく申し上げます。

「明日から実践できる運転支援～事例検討会～」

企画者：小林 利行 (札幌溪仁会リハビリテーション)

松下 祐也 (溪和会江別病院)

シンポジスト：有働 克也 (Start movement)

木下 和海 (十勝リハビリテーションセンター)

高橋 佑弥 (旭川医科大学病院)

(敬称略 五十音順)

【目的】

現在の日本において、超高齢化に伴ってんかんや認知症有病率が増加する傾向にある。また脳卒中により運動麻痺や高次脳機能障害を合併することも多く、運転再開に向けて多くの議論が行われている。

日本作業療法士協会では、そのような社会情勢の中《運転と地域移動推進委員会》が常設委員会として設置された。また運転支援に携わる職種として《運転と地域移動支援実践者制度》が設けられ、重点課題研修とされるようになった。運転支援の臨床現場では地域差があるとはいえ、評価や訓練の知識や技術が十分に共有、実践がされているとはいえない状況がある。

今回の事例検討会を通して、運転支援経験の無いOTにもわかりやすく支援方法を知っていただき、運転支援経験のあるOTの評価、訓練での悩みを少しでも共有し、明日からの臨床の解決の糸口となる機会とする。

【内容】

事例を通して運転支援経験のあるOTの先生方にご登壇いただき、評価、訓練をどのように進めているかディスカッションを通して参加者と共有、検討をする。

①運転評価について (15分)

神経心理学的検査 (紹介を含め) → ドライブシミュレーター → 実車評価 (動画) の流れに合わせて、運転再開可能とした事例と運転再開不可とした事例を提示する。

②シンポジストによる発表 (各10分)

①で運転再開不可とした事例を、評価結果と実車評価の動画を踏まえ、入院時からどのように評価し、実車評価でのOTの視点や関わり方などを説明する。また実車評価終了後の支援の方法などを発表する。

③公開討論会 (10分)

各シンポジストと一緒に評価内容、支援方法など質疑を通してディスカッションする。

質問や意見はその場でも受け付けながら、LiveQを使用して随時質問を受け付けながら進める。

視機能の理解を深める

北海道立子ども総合医療・療育センター作業療法士
藤坂 広幸
北海道立子ども総合医療・療育センター視能訓練士
池田 陽介

外部環境の認識においてヒトは80%以上を視覚に依存しているといわれており、身体・精神活動における視覚認知を考えると、基本的な視機能の理解は欠かせない。そこで、日常生活動作に関わりの深い視機能のうち、視力・視野・眼球運動に関する解説を企画した。

1. 視力

視力は最もよく知られた視機能である。眼球から視中枢にいたるまでの視路になんらかの障害をうけると、視力は低下する。一方、眼球は光の受容器であることから、生理光学の視点が必要である。眼に入射する光の焦点位置の違いにより近視、遠視、正視、乱視に分類される。適正な眼鏡やコンタクトレンズを装用することにより、見たい距離に合わせて快適な視環境を整えることができる。

2. 視野

視野は目を動かさずに見える範囲とされる。視野は部分によって感度が異なり、中心部がもっとも高く、周辺にいくにしたがい低くなる。これらは網膜細胞の配列によるものである。視野を理解するための視覚生理とともに、視野の評価法を解説する。

3. 眼球運動

眼球が動くことにより、視対象を素早く転動させたり、動く物体を視線で捉え続けたりすることができる。眼球運動障害が起こると複視が生じ、生活の質を著しく低下させる一因となる。眼球運動の評価においては単眼の可動域と両眼の協働性を確認することが重要である。より正確に眼球運動を評価するための検査法と、眼球運動障害による複視の対処法について解説する。

Fluff testを用いた身体に対する半側無視の評価方法 ：新たな評価基準の紹介

札幌医科大学附属病院リハビリテーション部

加藤 正巳

北海道医療大学リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科

橋本 竜作

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

太田 久晶

講演

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科 太田 久晶

半側空間無視とは病巣の対側に注意を向けることが困難となる現象である。患者の中には、自身を取り巻く周囲の空間のみならず、自己の身体に対しても無視が起こりうる。これは、身体に対する半側無視 (personal neglect) と呼ばれる現象であり、左半身に対して起こりやすい。

左半身に対する半側無視の評価方法として、代表的なものの1つがFluff testである (Cocchini et al., 2001)。この検査では、視覚を遮断した対象者の左上下肢、右下肢、体幹の左右前面に触覚刺激を衣服の上から取り付ける。そして、対象者は、右手を用いた手探りで、取り付けられた触覚刺激を探し出すことが求められる。結果の解釈として、左半身に取り付けられた触覚刺激の取り忘れが3つ以上である場合に、身体に対する半側無視が陽性と判定される。ただし、この評価基準では、病巣同側の見落としについては考慮されておらず、全般性の注意障害など、別の要因で上記の判定基準を満たしてしまう場合が起こりうる。そのため、Cocchiniら (2022) は、病巣の対側のみならず、同側での見落としも含めた評価基準を新たに提案した。

そこで今回は、Fluff testの新しい評価基準の紹介を中心に、明日の臨床から使える身体に対する半側無視に関する評価について紹介する。

文献

Cocchini G, et al.: Neuropsychol Rehabil 2001; 11: 17-31

Cocchini G, et al.: Neuropsychol Rehabil 2022; 32: 69-83

患者自身が「作業」を用いて困りごとを解決できる為の支援
- 様々な領域でCO-OPを使ってみよう -

北海道作業遂行研究会 会長
荒井 英俊

私たち作業療法士は、人がwell-beingの状態を継続できるよう、「〇〇をして下さい」や「〇〇をしましょう。」といった支援だけではなく、クライアント自身が「〇〇をしたい。」と思うことを「クライアント自身でするようになる」ことを支援する医療専門職です。この後者の支援を行うためには、クライアント自身が課題や目標・強みや弱さ・解決のための作戦立案と実行・これらの修正・他の課題への応用といったことに気づき、考え、実行できるようにすることが重要です。

今回このSIGで取り上げるCO-OPは、困りごとの解決にクライアントが作業遂行を通して「認知」を用い技能を獲得するといった特徴があり、領域問わずその有効性を示す実践報告がされているアプローチです。

作業療法士がクライアントの困りごとにCO-OPを用いてどのように関わるのか、実際の症例（小児・成人）を通して、一緒に勉強しませんか。施設・病院を超えて自身とは異なる経験を持つ作業療法士同士が集まり、その経験や考えを共有する機会はそう多くはありません。ぜひこの機会のご参加のほどよろしく申し上げます。

【当日の流れ】

1. CO-OPとは
2. 症例提示（小児・成人）
3. グループごとでの検討
4. まとめ

症例検討会

会 長 越後 歩 (札幌徳洲会病院整形外科外傷センター)
副会長 白戸 力弥 (北海道文教大学医療保健科学部リハビリテーション学科)
事務局 札幌徳洲会病院作業療法室
〒004-0041 札幌市厚別区大谷地東1丁目1-1

【本研究会の紹介】

北海道ハンドセラピー研究会は札幌およびその近郊で手外科領域のリハビリテーション（ハンドセラピー）に興味を持つ作業療法士によって2003年に発足しました。発足から20年以上の歴史を持ち、いままでに第165回の定例の症例検討会を行い（2024年1月10日時点）、道内のハンドセラピーの普及、活性化に貢献してきました。

本研究会の主な活動内容は「症例検討会」、および「セミナーの開催」です。定例の症例検討会は月に1回、第1週の水曜日の19時から21時に札幌徳洲会病院で開催しております。近年は、函館や帯広、旭川などの遠方からもwebを利用し、毎回20~30名の作業療法士が参加しております。また年に1度、道内の手外科医とコラボレートして久光製薬株式会社の協賛のもとに「北海道手外科・ハンドセラピー研究会」を開催し、毎年100名程度の医師と作業療法士が参加しています。

【本SIGのワークショップの紹介】

第54回北海道作業療法学会学術大会のSIGのワークショップでは、定例の症例検討会の形式で経験ある2名の作業療法士より症例を提示していただき、参加者の皆さんとの討論する企画を予定しています。多くの皆様に本SIGのワークショップへご参加頂き、明日からの臨床に役立てる機会にしていきたいと思っております。

何卒よろしくお願ひ申し上げます。

「作業療法で留意したい内部障害とリスク管理」

代表 石井 陽史 (市立札幌病院)

副代表 伊藤 耕栄 (釧路孝仁会記念病院)

事務局 山本 英貴 (日鋼記念病院)

講演

市立札幌病院 リハビリテーション科 杉浦 宏和

【取得資格】

平成28年4月1日 循環認定理学療法士 (日本理学療法士協会)

平成31年9月1日 心臓リハビリテーション上級指導士 (日本心臓リハビリテーション学会)

令和4年4月1日 心管理理学療法 専門理学療法士 (日本理学療法士協会)

同上 呼吸理学療法 専門理学療法士 (日本理学療法士協会)

同上 糖尿病理学療法 専門理学療法士 (日本理学療法士協会)

【企画趣旨】

今回は、理学療法士の杉浦 宏和先生を招いてのレクチャーを企画しました。レクチャー後、皆様の悩み・疑問・課題や経験を共有しネットワークを広げていけたらと思います。内部障害が苦手と思っている方も是非、この機会に新たな領域に挑戦しませんか？皆様の参加をお待ちしております。

「作業療法で留意したい内部障害とリスク管理」

市立札幌病院 リハビリテーション科 杉浦 宏和

内部障害と聞くと、「どこまで負荷をかけてよいのかわからない」、「リスク管理がわからない」などといった不安から、苦手意識を持っているセラピストも少なくないと思う。運動麻痺や関節可動域制限、姿勢異常などの目に“みえる”障害と異なり、内部障害は文字通り身体内部の臓器に何かしらの障害が生じているため、目に“みえない”ことが苦手意識を助長させている原因のひとつと思われる。しかし、内部障害患者の多くは、様々なかたちで目に“みえる”サインを身体から発している。それは、身体所見や vital sign, 各種検査所見などのかたちで目に“みえる”。これらのサインを適切に捉え、身体内部で何が起きているかを推察するスキルを身に付けることができれば、冒頭で例として述べた不安を解消する大きな武器となる。他の分野のセラピストと話しをすると「内部障害患者はみていません」という声を耳にすることがあるが果たしてそうだろうか。例えば、心不全は80歳以上の約10人に1人罹患することや、COPDは75歳以上の約4人に1人罹患することが報告されており、いわゆる common disease (日常的に高頻度に遭遇する疾患)と言われている。もしかしたら、患者が発しているサインを見逃して、陰に潜んでいる内部障害に気が付かずに作業療法を実践しているかもしれない。今回は、内部障害をみるために最低限必要な基本的な病態生理、ならびにリスク管理として見逃してはいけないサインを押さえた上で、皆様と内部障害作業療法の実践について討論していきたい。

第54回北海道作業療法学会学術大会 実行委員会

<大会長>

佐々木 努（北海道千歳リハビリテーション大学）

<実行委員長>

久保 勝幸（北海道千歳リハビリテーション大学）

<財務部>

部長

泊り由希子（北海道千歳リハビリテーション大学）

<演題抄録部>

部長

山田 恭平（北海道千歳リハビリテーション大学）

<会場進行部>

部長

田中 孝博（札幌医療リハビリ専門学校）

副部長

長南 行浩（札幌医科大学）

<学会運営相談役>

仙石 泰仁（札幌医科大学）

太田 久晶（札幌医科大学）

協賛いただいた施設・団体

医療法人社団函館脳神経外科

医療法人ひまわり会札幌病院

北海道千歳リハビリテーション大学

学校法人稲積学園北都保健福祉専門学校

学校法人西野学園

函館市医師会看護・リハビリテーション学院

株式会社オフィスサニー

(順不同・敬称略)

■ 続編、待望の発刊

続 12人のクライアントが教えてくれる 作業療法をするうえで大切なこと



著 齋藤 佑樹
前書に引き続き、12人の新たなクライアントとのエピソードを通して得た気づきや学びについて紹介。クライアントやチームスタッフとの目標共有や協働で生じる多くの齟齬や課題を取り上げ、目的や状況により無数の手段が存在する作業療法において、より良い選択をするために役立つ視点を解説。不確実性が高く難しいからこそ、やりがいのある作業療法の、臨床力をあげるためのヒントが見つかった1冊。

● 定価 2,200 円 (本体 2,000 円+税)
A5 110頁 2021年 ISBN 978-4-89590-712-5



■ 脳卒中後に生じる上肢機能の症状へのアプローチをライブ感覚でお届け PT・OTのための **脳卒中に対する 臨床上肢機能アプローチ**



編著 山本 伸一
弛緩、強い痙性、失調症や肩の痛み…。多くの脳卒中患者が上肢機能の症状に苦しんでいる。本書はそのような患者の治療に役立てるべく、全国の臨床家が培った知識と実践を結集して完成した。臨場感ある治療場面の写真も豊富に掲載し、この一冊で症状別にアプローチのポイントが理解できる。明日からの臨床に活かしていただきたい一冊。

● 定価 4,620 円 (本体 4,200 円+税)
B5 352頁 2023年 ISBN 978-4-89590-796-5



■ 「あるべき姿」から、それぞれの「ありたい姿」を見つめたキャリアデザインを / **セラピストのキャリアデザイン**

著 元廣 惇



いま、キャリアデザインの考え方は大きなパラダイムシフトを迎えています。「キャリアはより高く積み上げるもの」、「学位、職位が高ければ高いほど良いキャリア」というこれまでの考え方にこだわってはいは、これからの社会では通用しないかも?あなたのありたい姿に近づくためのキャリアデザインを、著者と一緒を考えてみませんか。

● 定価 3,080 円 (本体 2,800 円+税)
B5 152頁 2023年 ISBN 978-4-89590-795-8



■ ますま注目される「前庭リハビリテーション」の学習に最適の書! **前庭リハビリテーション 第2版** めまい・平衡障害に対するアプローチ



編著 浅井 友詞・岩崎 真一
前庭障害に対するリハビリテーションのニーズは高まっている。第2版は米国のガイドラインや本邦での指針を踏まえて加筆し、著者らの新たなデータを加えて大幅に改訂した。前庭リハの手法について写真を多用するとともに動画を追加。PT・OT・STの卒前教育のテキストとして、臨床現場でのパイブルとして活用できる一冊。

● 定価 3,960 円 (本体 3,600 円+税)
A5 224頁 2023年 ISBN 978-4-89590-790-3



■ フレイル高齢者の関節可動域は日々の生活を時間差で示す重要なシグナル! **フレイル高齢者の関節可動域**

編著 福田 卓民・沖田 実



“日々の生活を時間差で示す重要なシグナル”である高齢者の関節可動域を4,000人以上のデータで解析し、ケアやリハビリテーションの効果を検証。軽度～重度の虚弱状態にある高齢者をフレイルの欠損累積型モデルとそのスクリーニング尺度であるClinical Frailty Scaleを参考にフレイル高齢者と定義し、その「関節可動域」と「拘縮」を多面的に取り上げています。

● 定価 3,960 円 (本体 3,600 円+税)
A5 304頁 2023年 ISBN 978-4-89590-792-7



■ たくさんの気づきや教訓が見つかった、何度も読み返したくなる本 **12人のクライアントが教えてくれる 作業療法**をするうえで大切なこと



著 齋藤 佑樹
『作業療法ジャーナル』に連載の人気コラム「ひとをおもう」を加筆、書籍化。本書では、筆者らが過去に経験したクライアントとのエピソードをコラムとして掲載し、一つひとつのエピソードを通して得た気づきや学びについて解説。紹介する12のエピソードは臨床家の作業療法士が、臨床現場で必ずや遭遇する出来事を厳選。本書は、作業療法士が過去に経験したエピソードや今後経験するエピソードを言語化し、クライアントとの相互交流の中で選択・調整される実践の一助となるであろう。

● 定価 2,200 円 (本体 2,000 円+税)
A5 110頁 2019年 ISBN 978-4-89590-660-9



■ 人気シリーズ「覗いてみたい!? 先輩 OTの頭の中」最新刊 **覗いてみたい!? 先輩OTの頭の中 臨床のリアルに触れる**



著 澤田 辰徳
リハビリテーションの難しさを感じたとき、いつの間にか後輩を指導する立場になっていたとき、養成校から実習を受けてほしいと依頼されたとき、逆に教え子を実習先に送り出すとき……。そんな場面では著者は何を考え、どう行動したのか。いつも気の置けない友人や職場の仲間と一緒にだった著者の“リアル”をお届けいたします。

● 定価 3,080 円 (本体 2,800 円+税)
B5 154頁 2023年 ISBN 978-4-89590-794-1



■ 子ども一人ひとりの好き嫌いの理由に応じた対応をするために **発達が気になる子の偏食の見方と対応** 口腔・認知・感覚・環境面からのアプローチ

編著 立山 清美 / 著 宮嶋 愛弓・丹葉 寛之・中岡 和代・原田 瞬



発達が気になる子では偏食(好き嫌い)に困っている家庭もあり、栄養・発達面から介入が望まれるケースもある。本書では一人ひとり異なる好き嫌いの理由を口腔面・認知面・感覚面・環境面、また手の不器用さの面から解説するとともに、理由に応じた具体的な対応50項目を詳述。子どもの好き嫌いを知るために役立つチェックリスト付き。

● 定価 4,180 円 (本体 3,800 円+税)
B5 156頁 2023年 ISBN 978-4-89590-778-1



■ 発達が気になる子どもたちのための地域生活をサポートする 究極のリハビリテーションガイドブック!

神経発達症リハビリテーション

発達のが気になる子どもへのアプローチ



編著 真野 英寿・楠本 泰士・大貫 二三恵
発達のが気になる子どもの地域生活をサポートするリハビリテーションガイドブック。神経発達症児へのリハの現状や家族を中心とした関わりにも焦点を当て、スクリーニングや共有意思決定の重要性を説明。さらに視覚機能については眼の仕組みやチェックポイントを網羅し、障がい児に関わっている視能訓練士が詳しく解説しています。

● 定価 4,180 円 (本体 3,800 円+税)
B5 158頁 2023年 ISBN 978-4-89590-783-5



■ 急性期作業療法で、生活を豊かに!

作業療法ジャーナル 2023年増刊号 Vol.57 No.8

急性期における疾患別作業療法



作業療法のアイデンティティを保ちにくい急性期のリハビリテーション。本増刊では、急性期の脳卒中、運動器疾患等への作業療法とともに、精神科・児童精神科、NICU等での対応についても解説し、臨床活動の一助とすることを目的の一つとした。関連する多職種連携や栄養サポート、精神科リエゾンチームとOTのかかわり等の貴重な内容も紹介。

● 定価 4,400 円 (本体 4,000 円+税)
B5 246頁 2023年





「ずーっと。」

人と社会を支える

溪仁会グループは「医療」「福祉」「在宅支援」のさまざまな角度から総合的なリハビリテーション・サービスを提供しています。

医療法人 溪仁会

手稲溪仁会病院

札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 Tel011-681-8111

救急・集中治療病棟の超急性期から365日のリハビリテーションを提供します。早期離床、早期ADL実施を進め、生活機能向上へ向けた作業療法プログラムを実践しています。

札幌溪仁会リハビリテーション病院

札幌市中央区北10条西17丁目36-13 Tel011-640-7012

ロボティクスリハビリテーションや、FES機器など各種デバイスを使用し、専門的なリハと良質なケアを提供するとともに、患者さんの運動機能や生活機能の回復を図り、社会復帰や社会参加を支援します。また、各種地域支援活動も行っております。

札幌西円山病院

札幌市中央区円山西町4丁目7-25 Tel011-642-4121

回復期リハビリテーション病棟、神経内科病棟で365日リハビリを実施するとともに、終末期までの全てのステージにおいてリハビリを提供します。認知症やフレイルを中心とした地域活動にも積極的に挑戦します。

定山溪病院

札幌市南区定山溪温泉西3丁目71 Tel011-598-3323

屋上に足湯のある病院です。地域包括ケア病棟、障害者病棟、医療療養病棟があり、積極的な在宅支援に努めています。溪仁会真駒内在宅クリニックでは、訪問リハビリテーションも実施しています。

社会福祉法人 溪仁会

入所者は在宅復帰を、在宅療養者は安定した在宅生活の継続を目指したリハビリテーションを、多職種協働の下、職員一丸となって提供します。地域での介護予防事業などにも力を注いでいます。

介護老人保健施設

コミュニティホーム白石

札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 Tel011-864-5321

介護老人保健施設

コミュニティホーム美唄

美唄市東5条南7丁目5-1 Tel0126-66-2001

介護老人保健施設

コミュニティホーム八雲

二海郡八雲町栄町13-1 Tel0137-65-2000

介護老人保健施設

コミュニティホーム岩内

岩内郡岩内町字野東69-26 Tel0135-62-3800

「ずーっと。」
人と社会を支える

ik 溪仁会グループ

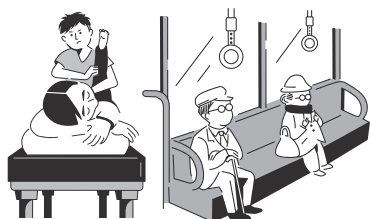
支える気持ち、育てよう。



函館市医師会 看護・リハビリテーション学院

学院の教育方針と特色

地域医療



POINT

地域医療の課題と向き合い、地元のために貢献できる理学療法士・作業療法士を育成します

ICT教育



POINT

医療ICTの教育を取り入れ、医療情報科学の知識を持つ次世代のセラピストを育成します

研究機関



POINT

当学院の生体医工学研究センターは文部科学省科学研究費助成事業指定研究機関となっています

湯の川キャンパス 3年制

看護学科

〒042-0932 函館市湯川町3丁目38番45号
■TEL 0138-36-0080 ■FAX 0138-36-0081

五稜郭キャンパス 3年制

理学療法学科・作業療法学科

〒040-0081 函館市田家町5番16号
■TEL 0138-43-8282 ■FAX 0138-43-8283

学院HP



革新に満ちた医療への挑戦と新たなる組織価値の創造

地域を支える力になりたい。



言語聴覚士



理学療法士

わたしたちは北斗グループです。



公認心理師



作業療法士



北斗病院



十勝リハビリテーションセンター

- | | | | |
|-------------------------|-------|--------------------------|---------------|
| 北斗病院 | (帯広市) | 認知症対応型共同生活介護グループホーム あおぞら | (帯広市) |
| 北斗クリニック | (帯広市) | 上士幌クリニック/介護老人保健施設かみしほろ | (上士幌町) |
| 十勝リハビリテーションセンター | (帯広市) | 新得クリニック | (新得町) |
| サービス付き高齢者向け住宅 あやとり | (帯広市) | 熊谷総合病院 | (埼玉県熊谷市) |
| 十勝自立支援センター介護老人保健施設 かけはし | (帯広市) | HOKUTO画像診断センター | (ロシア・ウラジオストク) |
| ほくと自立支援ホーム/カンタキあおぞら | (帯広市) | HOKUTOリハビリテーションセンター | (ロシア・ウラジオストク) |



<文部科学大臣認定「職業実践専門課程」認定校／世界作業療法士連盟(WFOT)認定校>

札幌リハビリテーション専門学校

〒060-0004 札幌市中央区北4条西19丁目1-3 TEL.011-616-2221



作業療法士科 4年制課程 / 40名

【併設学科】理学療法士科 4年制課程 / 40名

「高度専門士」取得可能! 卒業時に大学卒「学士」と同等と認められる「高度専門士」の称号が得られます。



アクセス
・地下鉄東西線「西18丁目」駅
1番または3番出口より徒歩12分
・JR「桑園」駅より徒歩18分



<文部科学大臣認定「職業実践専門課程」認定校>

札幌医学技術福祉歯科専門学校

〒064-0805 札幌市中央区南5条西11丁目1289-5 TEL.011-513-2111



作業療法士科 3年制課程 / 40名

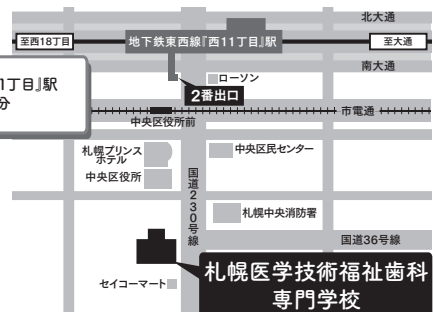
理学療法士科 3年制課程 / 40名

言語聴覚士科 3年制課程 / 40名

【併設学科】 介護福祉士科 | 歯科衛生士科
臨床検査技師科 | 臨床工学技士科



アクセス
・地下鉄東西線「西11丁目」駅
2番出口より徒歩7分



医療・福祉・歯科の専門学校

学校法人西野学園

<https://nishino-g.ac.jp>



リハを学び、未来を創る。



未来を拓く医療人をめざして

北海道千歳リハビリテーション大学

Hokkaido Chitose College of Rehabilitation

■ 健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 / 作業療法学専攻

〒066-0055 千歳市里美2丁目10番 TEL 0123-28-5331 <https://www.chitose-reha.ac.jp/>

carewill

ケアウィルは、対象者、療法士の皆さんと福祉製品を共創しています

GOOD DESIGN AWARD
2022年度受賞



かわさき基準
福祉製品2023

ご利用者様 累計 900名 突破

片麻痺、リウマチや加齢で腕・指に可動域制限がある、在宅、特養、訪看・デイ・通所、リハ科の対象者へ

乾燥機
でつかえる

洗濯ネットバッグ



ココがいい！

- 丸ごと洗える脱衣かご
脱いだ服は自立式のバッグへ。そのまま洗濯機で丸洗い。乾燥機でも使えます。
- 洗濯の自立を支援
洗濯物の仕分けと移し替え、ネットへの出し入れが不要。患者さん自らの洗濯を支援します。
- 洗濯ものが絡まない
丸く型崩れしないバッグはバッグ内に一定のすき間を作り、洗濯物の絡まりを防ぎます。
- プライバシーを守り、紛失を防止
ファスナーを閉めれば中は見えません。施設内での衣類の紛失も防止します。



自立する

洗濯ネットだけでなく脱衣かごとして、脱衣場、洗濯機の上、物干し場で自立と開口を維持します。



持ち運べる

持ち手があるので洗濯機から取り出して持ち運べます。中は見えないのでプライバシーを守ります。



洗濯物が絡まない

丸く型崩れしない形状はバッグ内に一定のすき間を作るので、洗濯物の絡まりを防ぎます。



自立支援と紛失防止

乾燥機対応で施設やホームでのご利用も安心。対象者の洗濯の自立支援と、衣類の紛失防止に。

GOOD DESIGN AWARD
2021年度受賞



かわさき基準
福祉製品2022

ご利用者様 累計 320名 突破

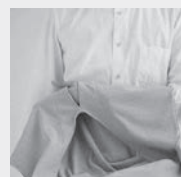
脳卒中（脳梗塞）による片麻痺、亜脱臼、腱板断裂/損傷、肩痛、骨折、頸肩腕症候群、リウマチなど

アームスリングケープ

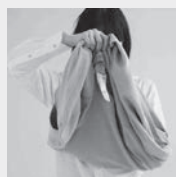


ココがいい！

- 一人で着脱ができる
片手で簡単に着れるデザイン。ボタンや留め具もなく、短時間で着脱できます。
- 首を痛めず、疲れにくい
伸縮する生地全体で腕を支え、内部のゴム素材で腕の自重を両肩へ分散させます。
- 肩まわりがあたたかい
ケープ式なので外気が中に入らず、秋や冬、夏の冷房下も肩回りを保温します。
- コーディネートしやすいデザイン
グレーとネイビーの2色から選べます。外出着としての装いを楽しんでいただけます。



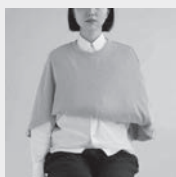
①内袋に患側の腕を通す



②襟ぐりをつかんで首を通す



③肩回りを整える



④完成

※この製品は地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター東京都立産業技術研究センターと共同開発されました

神奈川県・川崎市の市政100周年記念事業
『川崎発！福祉の未来をカタチに』で行政と協働開発

車いす利用者用レインウェア



雨の日の外出
をあきらめない

2024年6月販売開始



簡単な着脱
介助がなくとも、簡単に着脱できる、ポンチョとひざかけです。そでのあり、なしを選べます。



多様な固定方法
上肢の可動制限と、車いすの形状に応じて、ひざかけの6つの固定方法を選べます。



さっとたためる
ひざの上で、簡単にため、コンパクトに収納できます。移動中もわずらわしくありません。



ポンチョ・ひざかけ分離式

すべての製品のサンプルを
無料で貸し出しています！

全国どこでも、3日以内にお届け
お申し込みは30秒で完了
お申込はこちら→



ネットで買えます！ carewillamazon

翌日までに発送。アマゾンからも！



製品販売元：株式会社ケアウィル
carewill.co.jp

〒170-0003 東京都豊島区駒込4丁目2-24





株式会社 ほくやく・竹山ホールディングス



「生命と健康への貢献
「医師、医療スタッフとともに
人々の生命と健康を守る」という
創業以来の使命感のもと
社会貢献度の高い仕事と
誇りを持ち、
日々努力を続けております。」

血液浄化 低侵襲機器 内視鏡

整形外科 「専門領域に特化した支援・サポート」 眼科

脳神経外科 ニーズにお応えするため、それぞれの診療・治療に
特化した専門担当部門を設けています。 テクニカルサポート

循環器 循環器外科 画像診断機器

株式会社 竹山 本社/〒060-0006 札幌市中央区北6条西16丁目1番地5
☎011-611-0100(代表) <https://www.takeyama.co.jp>
代表取締役社長 土田 拓也

●ほくたけメディカルトレーニングセンター「ヴィレッジプラス」/札幌市中央区北11条西14丁目1番1号(ほくやくビル4F)・☎011-700-5833 <https://www.takeyama.co.jp/villageplus/>

充実した拠点網によるきめ細やかな営業体制

札幌圏	中央支店:☎011-859-8714	北支店:☎011-789-1020	新札幌支店:☎011-859-8717	道東・道北圏	釧路支店:☎0154-25-2241	北見支店:☎0157-31-3224	帯広支店:☎0155-35-5800
	北大支店:☎011-859-8712	札幌大支店:☎011-859-8713	西支店:☎011-668-2526		旭川支店:☎0166-73-3011	旭川大支店:☎0166-73-3011	旭川東支店:☎0166-73-3011
	札幌東支店:☎011-859-8711	札幌南支店:☎011-676-6263	札幌西支店:☎011-859-8722		空知支店:☎0125-54-3465	道北支店:☎01654-3-9955	
道央・道南圏	室蘭支店:☎0143-45-1221	苫小牧支店:☎0144-53-2101	小樽支店:☎0134-29-4524	首都圏	東京支店:☎03-3814-0103	横浜営業所:☎045-232-3310	
	岩見沢支店:☎0126-25-6992	函館支店:☎0138-83-5000					

やさしさで、医療を科学する...

MINATO

カードによる運動履歴管理を実現



Weltonic

MINATO MEDICAL FITNESS MACHINE

WTS-i series

測定機能付自力運動訓練装置 ウェルトニック

筋力測定
機能付



CGT

(包括的高齢者運動トレーニング)に必要な4機種をラインナップしています。「4機種をワンセット」とした運動プログラムを実施することにより、日常生活に必要な筋力の強化が図れます。



体重支持指数(WBI)
測定機能
標準装備

ミナト医科学株式会社
URL <https://www.minato-med.co.jp/>

本社/〒532-0025 大阪府大阪市淀川区新北野3丁目13番11号 TEL 06(6303)7161 FAX 06(6303)9765
営業所/札幌・仙台・埼玉・千葉・東京・多摩・横浜・新潟・金沢・静岡・名古屋・京都・南大阪・大阪・神戸・高松・広島・北九州・福岡・鹿児島

合同会社北海道療育研究所 こども支援ルーム星置・こども支援ルーム宮の沢

・作業療法士による児童福祉施設（作業療法士12名，言語聴覚士1名在籍）

事業内容：相談支援・児童発達支援・居宅訪問型児童発達支援

放課後等デイサービス・保育所等訪問支援（50件/月）

発達に心配のあるお子さんに対して、作業療法士による専門的な感覚統合療法を取り入れながら、小集団での共有体験を通して自己有能感を高め、子ども達が感覚・運動・教育の中で生き生きとした楽しい、充実した日々が過ごせるように、早期に集団及び社会適応を目指します。

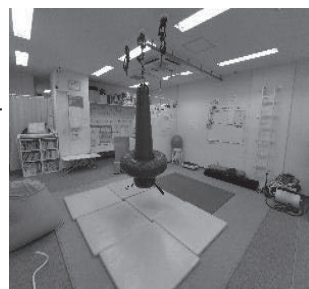
☆札幌市手稲区星置と西区発寒に2事業所開設，いずれもJR星置駅及び地下鉄宮の沢駅より徒歩2分以内

☆業務拡大につき，作業療法士2名，言語聴覚士1名，募集中

☆代表・作業療法士：世良彰康（連絡お待ちしております）

TEL 011-590-1152 mail：shienkodomom@ybb.ne.jp

<https://shienkodomom.com/shien>



作業療法の臨床場面をマンガで描き出した新時代の羅針盤



作業療法の曖昧さを 引き受けるということ

齋藤佑樹・上江洲 聖

作業療法は個別性が高く、どんな強固なエビデンスに基づいていたとしても、選んだ道が確かであるとは言い切れない——本書は、常にゆらぎのある臨床の最前線で、その曖昧さを引き受ける覚悟を決め、真摯に対象者との協働実践を続ける作業療法士に向けた新時代の羅針盤です。

●A5 頁248 2023年 定価3,520円（本体3,200円+税10%） [ISBN978-4-260-05057-9]



医学書院

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 [ウェブサイト]<https://www.igaku-shoin.co.jp>
[販売・PR部] TEL: 03-3817-5650 FAX: 03-3815-7804 E-mail: sd@igaku-shoin.co.jp

ワンストップで医療・福祉事業経営を支える

ワタキューグループの 包括委託サービス

多彩な事業をつなげて、
医療・福祉を支えます。

様々な業務をコーディネートし、
お客様に合ったサービスをお届けします。
業務内容の組み合わせも、
お気軽にご相談ください。



包括的に一元的に医療経営・福祉事業経営をサポートするサービスは、
ワタキューグループ各社の協力体制で実現しています。

■ **ワタキューセイモア(株)** リネンサプライ、販売、請負業務、総合サポート
■ **日清医療食品(株)** 給食の受託事業、食事宅配サービス事業
■ **(株)フロンティア** 保険薬局の経営、福祉用具のレンタル・販売

■ **(株)メディカル・プラネット** 医療福祉系人材紹介・派遣・請負業
■ **古久根建設(株)** 総合建設業、医療・福祉施設の設計・施工



健康と快適の明日を考える

ワタキューセイモア株式会社

www.watakyu.co.jp

本 部 / 〒600-8416 京都市下京区烏丸通高辻下ル薬師前町707 烏丸シティコアビル TEL.075-361-4130
北海道支店 / 〒047-0198 北海道小樽市新光5-13-3 TEL.0134-54-6525
旭川営業所 / 〒078-8274 北海道旭川市工業団地4条2-1-25 TEL.0166-36-8866
函館営業所 / 〒041-0824 北海道函館市西栢町830-3 TEL.0138-48-1882



社会医療法人 孝仁会

理事長 齋藤孝次



・ 釧路孝仁会記念病院
〒085-0062 釧路市愛国191番212
TEL : 0154-39-1222 FAX : 0154-39-0220

・ 釧路孝仁会リハビリテーション病院
〒084-0912 釧路市星が浦大通り3丁目9番13号
TEL : 0154-54-2500 FAX : 0154-54-2510

- ・ 札幌孝仁会記念病院
- ・ 老人保健施設 星が浦
- ・ 釧路脳神経外科デイケアセンター
- ・ ケアスタジオ住吉
- ・ 中標津訪問リハビリセンター
- ・ 釧路訪問リハビリセンター
- ・ 留萌セントラルクリニック
- ・ 知床らうす国民健康保険診療所
- ・ 星が浦訪問リハビリセンター

☆地域と、仲間と共に成長しよう

リハビリテーション統括部長 作業療法士 山田勝雄

法人本部 人事部 〒085-0062 釧路市愛国191番地5718号

リハ担当：仲村 / TEL 0154-65-1275 / Mail jinji@kojinkai.or.jp

<http://www.kojinkai.or.jp>



Health,
Heart & Hope

社会医療法人 平成醫塾 260床(一般50床・緩和ケア15床・回復期リハビリ104床・療養91床)

苫小牧東病院

〒053-0054 苫小牧市明野新町5丁目1番30号

TEL(0144)55-8811 FAX(0144)55-8822

理事長・院長 橋本 洋一

<https://health-heart-hope.com/>



【診療科目】

内科／リハビリテーション科／消化器内科／循環器内科／
呼吸器内科／脳神経内科／リウマチ科／放射線科／
緩和ケア内科／ペインクリニック内科／麻酔科（浅野 真）

あなたに寄り添うリハビリテーション。生き生きとした暮らしを生涯サポート致します。



メディカル。つながる。街つくる。

博愛会
メディカルグループ



社会医療法人 博愛会

開西病院

www.kaisei-hp.org

帯広市西23条南2丁目16-27 ☎0155-38-7200 (代)



開西病院

開西病院在宅ケアセンター
開西病院訪問リハビリテーション

(看護)小規模多機能型居宅介護
あんさんぶる
訪問看護ステーションかいせい

新井病院

リハビリデイ
りすた

介護老人保健施設

あかや

礼内在宅ケアセンターあかしや

介護老人保健施設

がらかいせい

障害者地域生活支援

ていんくる

特定施設入居者生活介護

ことの葉 おとふけ

地域密着型介護老人福祉施設
小規模多機能型居宅介護
サービス付き高齢者向け住宅
ユニタリ

グループホーム

かたらい

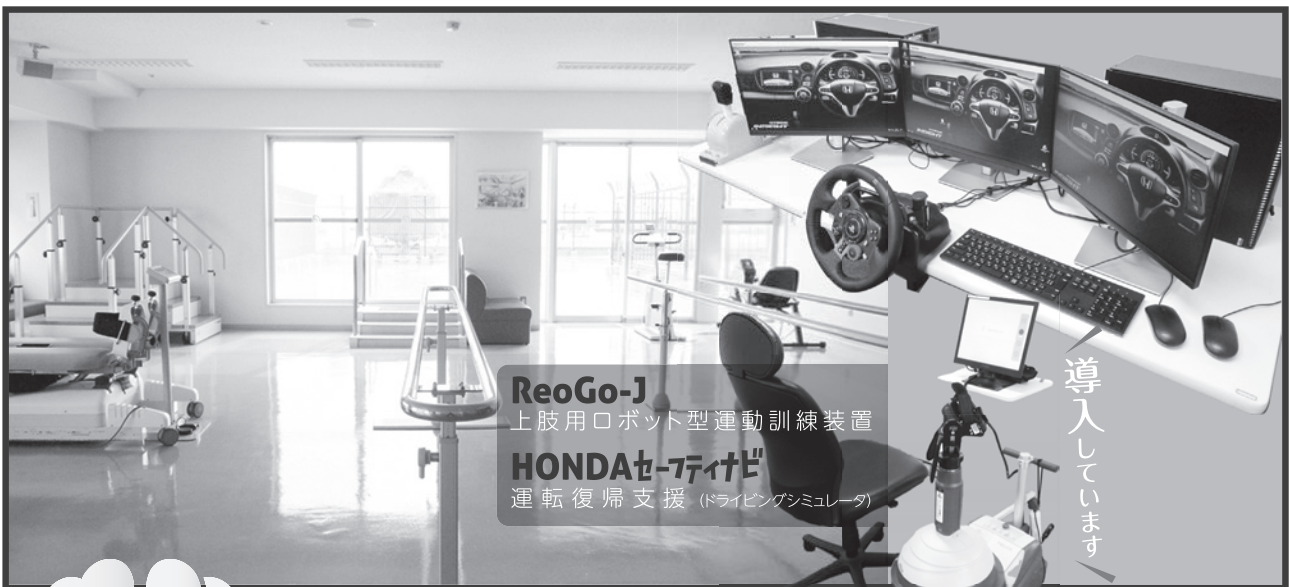
十勝セントラルキッチン
なないろ
nana-iro

博愛会のラジオ番組

博愛会★お達者倶楽部
毎週日曜日 AM11:30～

FM-JAGA 77.8MHz


博愛会 健康ラジオ番組
日曜 あさ 6:15～6:45
STV557
ごおり健太の
まごころ唄心



ReoGo-J
上肢用ロボット型運動訓練装置

HONDAセブティ
運転復帰支援 (ドライビングシミュレータ)

導入しています



医療法人社団 函館脳神経外科 ▶▶▶ 24H 救急対応

函館脳神経外科病院

HAKODATE NEUROSURGICAL HOSPITAL

公式サイト <http://www.hnh.or.jp> リクルートサイト <http://r.hnh.or.jp>



セラピストとして 人として 成長できる場所

知識・技術はもちろん、豊かな人間力を磨くことを大切に。
それが、私たちの目指すセラピストの第一歩です。

理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科

4年制 定員60名
卒業時「高度専門士」称号付与

4年制 定員40名
卒業時「高度専門士」称号付与

3年制 定員40名
卒業時「専門士」称号付与



厚生労働大臣指定

所在地 / 札幌市中央区南3条西1丁目

お問い合わせ / 学校法人 吉田学園 入学相談室

専門学校北海道リハビリテーション大学校

☎ 0120-607033
<https://yoshida-rehabili.jp>

医療と福祉の総合大学 ～医療と福祉の未来へともに～

月寒本キャンパス

〒061-0053

札幌市豊平区月寒東3条11丁目
1番50号



真栄キャンパス

〒004-0839

札幌市清田区真栄434-1アンデルセン福祉村



医療と福祉の現場から誕生した
日本医療大学

詳細は大学 HP から



家庭や地域に看護の輪をお届けします

- ★全道に53の訪問看護ステーションと15のケアプラン相談センターを配置して訪問看護と居宅介護支援サービスを提供しています
- ★約20名のOTが在籍しています
- ★ご利用のご相談はお近くの訪問看護ステーションまたはケアプラン相談センターへ



一般社団法人 北海道総合在宅ケア事業団

ホームページはこちら→<http://hghi.or.jp/>



〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目3番27号 TEL(代表) 011-281-2120

軽量・コンパクトな無線式筋力測定機器

高精度のプッシュセンサーとプルセンサー（オプション）を用意。
測定データを簡単にPCへデジタル転送できる無線（Wifi）機能を搭載。

Hand Held Dynamometer

mobie ZII

ハンドヘルドダイナモメーター モービーZII



プッシュセンサー



オプション：プルセンサー



酒井医療株式会社 札幌営業所

Tel : 011-780-5570 www.sakaimed.co.jp



SAKAIMED

明日に届み出すチカラ。酒井医療

北海道厚生農業協同組合連合会 帯広厚生病院

北海道帯広市西14条南10丁目1番地
TEL 0155-65-0101 FAX 0155-65-0105

院長

佐澤 陽



OBIHIRO
KOSEI
HOSPITAL



帯広厚生病院公式

YouTube



メディカルパワーシューズ EX

リハビリに最適 高い衝撃吸収力と優れた屈曲性
転倒予防機能 滑りにくい靴底と横ブレ防止構造
屋外でも履ける! 室内外で使用可能。丸洗いOK



抗菌防臭



color

ネイビー

株式会社新日本教育シューズ
 〒520-2132 滋賀県大津市神領 1-9-3
 Tel 077(543)1331 Fax 077(543)1334
<http://www.power-shoes.com/>

～防災・減災対策進んでいますか～



停電時でも
 あなたの周りを
 明るく照らす

いつでもランプ
tsuita

合同会社クオリティーライズ

〒041-0841 北海道函館市日吉町2丁目27番19号

TEL: **0138-87-2464**

FAX: 0138-87-0826

Mail: mizobe@qualityrise.info

代表社員 作業療法士 溝部 和

道北エリア唯一の
 リハビリと看護の養成校



作業療法士【4年制】

理学療法士【4年制】

看護師【3年制】



学校法人稲積学園
 北都保健福祉専門学校

〒078-8801
 旭川市緑が丘東1条2丁目1-28
 ☎0166-66-2500



第54回北海道作業療法学会学術大会 プログラム

2024年4月20日発行

発行者 第54回北海道作業療法学会学術大会
大会長 佐々木 努

事務局 北海道千歳リハビリテーション大学
〒066-0055 千歳市里美2丁目10番
実行委員長 久保 勝幸

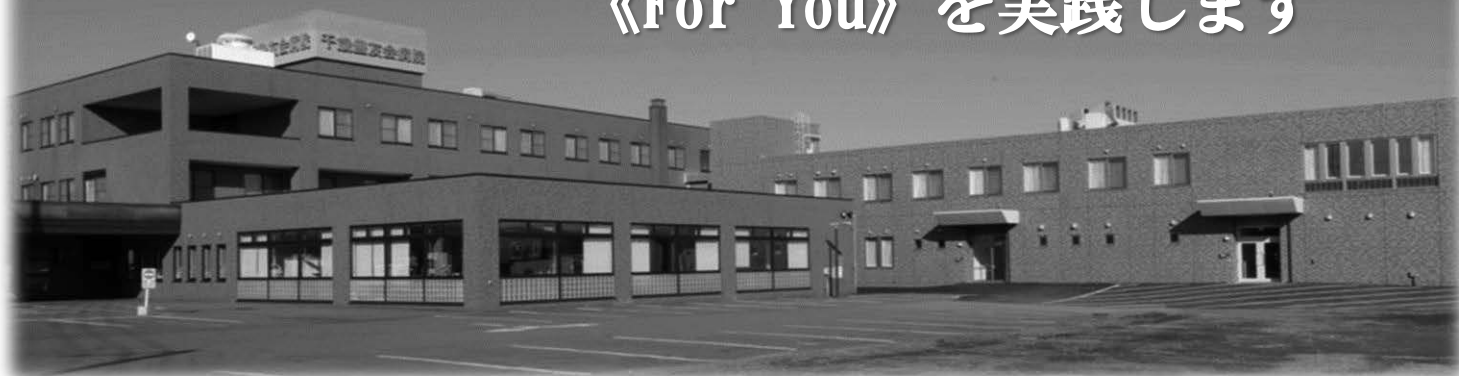
E-mail : haot.54gakkai.jimukyoku@gmail.com

印刷 中西印刷株式会社

誠意と思いやりの心で

患者さま中心の医療

《For You》を实践します



急性期から在宅まで途切れないリハビリテーションを目指して

Let's make it worthwhile together

～ 一人でも多くの笑顔と出会うために ～



医療法人社団豊友会 千歳豊友会病院

診療科目：脳神経外科、循環器内科、内科、腎臓内科、人工透析内科

病床数：134床（一般病棟36床、回復リハビリ病棟59床、療養病棟39床）

〒066 - 0034

千歳市富丘1丁目618-6

TEL 0123-24-4191

FAX 0123-26-2066

Mail reha@houyukai.jp

